戸長必携

丙編

彈舜平編纂

區畫改正

明治十三年八月印行

日新齋藏版

高等裁判所
圖書館
明治文庫 2306
昭57和

G22502
39.2.17
農商務省圖書

戸長必携丙編

例言

一本篇ハ明治十二年五月以降同十三年七月迄ノ公布公達指令等ヲ纂輯シテ甲乙編ノ追輯トス

一本篇章款中ノ細目ハ大概甲編ニ倣フト雖モ間ニハ法例規則ノ沿革ニ據リ或ハ増置或ハ之レヲ刪去ス

一本篇中時トシテハ十二年五月以前ノ公布指令ヲ掲挙シ甲乙編ノ闕漏ヲ補フ右等ノ廉ハ皆ナ(拾遺)ノ標目ヲ付ス

一本篇編次ノ體裁ハ渾テ甲乙篇ノ轍ヲ蹈ム故ニ復タ玆ニ贅セス

一本篇ハ簡易ヲ主トスル故漏脱ヲ免カレズソハ逐次編纂スル丁編ニ載錄シテ完璧ナラシムベシ

明治十三年八月

編者識

戸長必携丙編

例言

一本篇ハ明治十二年五月以降同十三年七月迄ノ公布公達指令等ヲ纂輯シテ甲乙編ノ追輯トス

一本篇章款中ノ細目ハ大概甲編ニ倣フト雖モ間ニハ法例規則ノ沿革ニ據リ或ハ増置或ハ之レヲ刪去ス

一本篇中時トシテハ十二年五月以前ノ公布指令ヲ掲擧シ甲乙編ノ闕漏ヲ補フ右等ノ廉ハ皆ナ(拾遺)ノ標目ヲ付ス

一本篇編次ノ體裁ハ渾テ甲乙篇ノ轍ヲ蹈ム故ニ復タ玆ニ贅セス

一本篇ハ簡易ヲ主トスル故漏脫ヲ免カレズソハ逐次編纂スル丁編ニ載錄シテ完璧ナラシムベシ

明治十三年八月

編者識

G22502
39. 2. 17
農商務省農務局

戶長必携丙篇

目次

前加　總則　一丁

第一　郡區町村編制法　五丁

第二　府縣會規則　一一丁

第三　區町村會法　二二丁

第四　地方稅規則　二七丁

第五　營業稅雜種稅種類及ヒ制限　三丁

第一章　戶長職務　三丁

第一款　戶長撰擧法　三丁

第二款　戶長旅費　四丁

第二章　布告布達ヲ町村内ニ示ス事　一丁

第一款　布告布達到達期限　三五丁

第二款　府縣ノ布達ニ違犯スル者處分方　三七丁
第三章　地租及諸稅ヲ取纏上納スル事
第一款　地租金上納　三八丁
第二款　代米上納　四六丁
第三款　租稅未納者處分　四七丁
第四款　諸稅上納　四八丁
第四章　戸籍ノ事　五四丁
第一款　編制法　五九丁
第二款　婚姻法　六二丁
第三款　繼承法　六九丁
第五章　徵兵下調ノ事　七五丁
第一款　徵兵編制　七七丁
第二款　徵兵區々域　八二丁

第三款　徵兵官員及ヒ其職掌　九五丁
第四款　除役免役及ヒ徵集猶豫　一〇二丁
第五款　徵兵檢查　一〇七丁
第六款　抽籤　一一六丁
第七款　徵兵雜則　一二五丁
第八款　徵員　一三四丁
第九款　改正徵兵取扱條例　闕
第十款　徵兵入費定則　闕
第六章　地所建物船舶質入書入幷ニ賣買ニ奥書加印ノ事　一三七丁
第一款　地所質入書入規則　闕
第二款　建家書入質及賣買讓受規則　闕
第三款　船舶賣買書入質規則　闕
第七章　地券臺帳ノ事　闕

第一款　地券臺帳　一四〇丁
第二款　地券渡方　一四三丁
第三款　地券書換　一四三丁
第八章　迷子棄兒及ヒ行旅病人變死人其他事變アル時ハ警察署ニ報知ノ事　關
第一款　迷子棄兒　關　一四八丁
第二款　行旅病人取扱規則　關　一五〇丁
第三款　變死人檢視要否　一五六丁
第四款　町村衛生事務條項
第九章　天災又ハ非常ノ難ニ遭ヒ目下窮迫ノ者ヲ具狀スル事
第一款　水火防禦ノ爲メ死傷者弔祭扶助料　一五七丁
第二款　濟貧恤救　關
第三款　儲蓄備荒法

第十章　孝子節婦其他篤行ノ者ヲ具狀スル事　一六二丁
第一款　賞典
第十一章　町村ノ幼童就學勸誘ノ事　一六四丁
第一款　教育令及學校諸規則　一七八丁
第二款　學務委員選擧規則
第十二章　町村内人民ノ印影簿ヲ整置スル事　一八〇丁
第一款　印鑑帳　關
第二款　官印章
第十三章　諸帳簿保存管守ノ事　一八五丁
第一款　記錄文書類
第十四章　官費府縣費ニ係ル河港道路堤防橋梁其他修繕保存スベキ物ニ就キ利害ヲ具狀スル事　一八六丁
第一款　河港堤防治水ニ係ル修築費

第二款　道路修繕費　一九三丁
第三款　橋梁幷渡船場　一九五丁
以上

最高裁判所図書之印

彈琴平編纂

○

前加　總則

第一　郡區町村編制法

○太政官第十七號布告　明治十一年七月廿二日

郡區町村編制法左ノ通被定候條此旨布告候事

郡區町村編制法

第一條

一地方ヲ畫シテ府縣ノ下郡區町村トス

第二條

一郡町村ノ區域名稱ハ總テ舊ニ依ルヘシ

第三條

一郡ノ區域廣闊ニ過キ施政ニ不便ナル者ハ一郡ヲ畫シテ數郡トス　東西南北

郡區町村編制法

一

上中下某郡
ト云ガ如シ

第四條

一三府五港其他人民輻湊ノ地ハ別ニ一區トナシ其廣闊ナル者ハ區分シ
テ數區トナス

第五條

一每郡ニ郡長各一員ヲ置キ每區ニ區長各一員ヲ置ク郡ノ狹少ナルモノ
ハ數郡ニ一員ヲ置クコトヲ得

第六條

一每町村ニ戸長各一員ヲ置ク又數町村ニ一員ヲ置クコトヲ得

但區內ノ町村ハ區長ヲ以テ戸長ノ事務ヲ兼スルコトヲ得

（追加）○太政官第十四號布告明治十三年四月八日

明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法左ノ通追加候條此旨布告候事

第七條

一此編制法ヲ施行シ難キ嶋嶼ハ其制ヲ異ニスルヲ得

第八條

一地方ノ便益若クハ人民ノ請願ニ由リ止ムヲ得サル理由アルモノハ郡
區町村ノ區域名稱ヲ變更スルコトヲ得

第九條

一第三條第四條第七條第八條ノ施行ヲ要スル件ハ府知事縣令ヨリ內務
卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クベシ

但町村區域名稱ノ變更ハ內務卿ノ認可ヲ受クベシ

○太政官第十五號布告明治十二年四月八日

鹿兒島縣管轄大嶋喜界嶋德ノ島沖永良部島與論島ヲ以テ大島郡トナシ
大隅國ヘ被屬候條此旨布告候事

○太政官第廿二號布告明治十三年五月五日

郡區町村編制法

明治十一年七月第十七號布告郡區編制法ニヨリ從前ノ一郡ヲ分割シ或ハ新ニ郡名ヲ設ケ又ハ區ヲ設置スルモノ別冊ノ通候條此旨布告候事

（編者曰別冊ハ冗長ニ渉ルヲ以テ畧ス卽チ郡區吏必携初版追纂第一輯第一篇第一章第一款ニ出ス參觀セラレヨ）

第二　府縣會規則

（改正）○太政官第十五號布告明治十三年四月八日

明治十一年七月第十八號布告府縣會規則左ノ通改正候條此旨布告候事

第一章　總則

第一條　府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス

第二條　府縣會ハ通常會トノ二類ニ別ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナシ臨時ニ開ク者ヲ臨時會トス

第三條　通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事縣令ヨリ之ヲ發ス

第四條　臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限リ其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス

第五條　府縣會ノ議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若

シ府知事縣令其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ其事由ヲ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第六條　府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ府知事縣令ニ說明ヲ求ムルコトヲ得若シ異見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ直ヲ内務大藏兩卿ニ上申スルコトヲ得

第七條　通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付政府ニ建議セントスル者アレハ先ツ議會ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ直ナニ内務卿ニ建議スルヲ得

第八條　府縣會ハ府知事縣令ヨリ其府縣内ニ施行スヘキ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ議ス

第九條　府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得府縣會ハ議員ノ内招集ニ應セス又ハ事故ヲ告ケスメ

參會セサル者ヲ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得

第二章　撰擧

第十條　府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ毎郡區ニ五人以下ヲ選フ

第十一條　議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ之ヲ府知事縣令ニ報告スヘシ

知事縣令ハ之ヲ内務卿ニ報告スヘシ

議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナシ

但會期中滯在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　書記ハ議長之ヲ選ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中ヨリ之ヲ支給ス

第十三條　府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歳以上ノ男子ニシテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租拾圓以上ヲ納ムル者ニ限ル

但左ノ各款ニ觸ルノ者ハ議員タルコトヲ得ス

第一款　瘋癲白痴ノ者

第二款　懲役一年以上及國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者

但滿期後七年ヲ經タル者ハ此限ニ在ラス

第三款　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款　官吏及敎導職

第五款　府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者

第十四條　議員ヲ撰擧スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歳以上ノ男子ニシテ其郡內ニ本籍ヲ定メ其府縣內ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ

但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ルヽ者ハ撰擧人タルコトヲ得ス

第十五條　議員ヲ撰擧セントスルトキハ府知事縣令ヨリ某月間ニ撰擧會ヲ開クベキ旨ヲ布令シ郡區長ハ豫メ撰擧ノ投票ヲ爲スベキ日ヲ定メ少クモ十五日前ニ之ヲ郡區內ニ公告スヘシ

第十六條　撰擧ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ選擧會中ノ取締ヲ爲スヘシ

但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ撰擧會ヲ開クコトヲ得

第十七條　選擧人ハ豫メ郡區長ニ付與シタル投票用紙ニ自己及ヒ被撰人ノ住所姓名ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ出スヘシ其投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當撰人トシ同數ナラハ年長ヲ取リ同年ナラハ鬮ヲ以テ之ヲ定ム

但投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ナシ

第十八條　投票終ルノ後郡區長ハ撰擧人名簿ニ就テ投票ノ當否ヲ查シ又被選人名簿ニ就テ當選人ノ當否ヲ查ス若シ法ニ於テ不適當ナル者

アルカ或ハ當選人自ラ其撰ヲ辭スルトキハ順次投票ノ多數ヲ得タル者ヲ取ル

第十九條　當選人ノ當否ヲ査定スルノ后郡區長ハ其當選人ヲ郡區廳ニ呼出シ當選狀ヲ渡シ當選人ハ請書ヲ出スヘシ

但當撰人各請書ヲ出シタル后郡區長ハ其姓名等ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第二十條　一人ニシテ數郡區ノ撰ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第二十一條　議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス第一回二年期ノ改撰ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條　議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ公撰スヘシ

第二十三條　前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得

第二十四條　議員中第十三條ニ揭クル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉住スルカ其他總テ欠員アルトキハ更ニ之ニ代ル者ヲ撰擧ス

第三章　議則

第二十五條　議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條　會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十七條　府知事縣令若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ辨明スルヲ得

但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條　會議ハ傍聽ヲ許ス

但府知事縣令ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

第二十九條　議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レトモ人身上ニ付

テ褒貶毀譽ニ渉ルコトヲ得ス

第三十條　議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ渉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章　開閉

第三十一條　府縣會ハ毎年一度三月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事縣令ヨリ之ヲ命シ會期ハ三十日以内トス

但府知事縣令ハ會議ノ衆議ヲ取リテ其日限ヲ伸ルコトヲ得ルト雖モ其事由ヲ直ニ内務卿ニ報告スヘシ

第三十二條　通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事務アルトキ府知事縣令ハ臨時會ヲ開クコトヲ得

但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ内務卿ニ報告スヘシ

第三十三條　會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ内務卿ハ何レノトキヲ問ハス閉會ヲ命シ又ハ議員ノ

アリト認ルトキハ府知事縣令ハ會議ヲ中止セシメ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

第三十四條　會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ内務卿ハ何レノトキヲ問ハス閉會ヲ命シ又ハ議員ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第三十五條　内務卿ヨリ解散ヲ命シタルトキハ其解散ヲ命シタル日ヨリ九十日以内ニ更ニ議員ヲ改撰スヘシ

○内務省乙第六號府縣達　同十二年一月廿八日

客年第十八號布告（府縣會規則）第十三條第四款ニ就キ准官吏ハ官吏ト同シク被撰人タルコトヲ得ザル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○神奈川縣伺同十二年二月

昨十一年第十八號公布第十三條第四款官吏教導職ハ議員タルヲ得ザル儀ニ有之候處准官吏學區取締等ノ儀モ同樣被撰ノ中ニ入ルヲ得ザル儀

ニ候哉將又郡區役所並ニ戸長役場雇ノ者及學校教員ハ被撰ヲ得ル儀ニテ議員タルヲ承諾ノ後タリ𪜈學校教員ノ儀ハ依然就職罷在候テモ差支無之儀ト相心得可然哉至急仰御指揮候也

○内務省指令二月十二日

書面準官吏ト雖𪜈被撰人タルヲ得サレハ本年乙第六號達ノ通タルヘク準官吏ニ非ザルノ雇其他ノ者ニ於テハ議員ヲ承諾ノ後ト雖𪜈其職ヲ離ルヽニ及ハザル儀ト可心得事

○内務省乙第十八號達同十二年四月十六日

府縣會議員犯罪ノ廉有之拘引ヲ要スル𪜈其會場内ニアル𠮟ハ議長ノ承諾ヲ得タル上拘引可致此旨相達候事

○元老院錄事同十三年三月

今般本院議事傍聽ヲ府縣會議員ニ許スニ依リ傍聽牌第一項中左ノ如ク增加ス

一議事ヲ傍聽スルヿヲ得ル者ハ判任官以上及ヒ華族幷府縣會議員ニ限ル

○内務省乙第十二號府縣達同十三年三月廿九日

明治十一年第十八號公布第廿一條議員ノ任期四年トハ通常會ヲ四度勤ムル儀ト可相心得此旨相達候事

但第一回二年期モ本文ニ準シ二度トス

第三　區町村會法

○太政官第十八號布告明治十三年四月八日

區町村會法左ノ通相定候條此旨布告候事

區町村會法

第一條　區町村會ハ其區町村ノ公共ニ關スル事件及ヒ其經費ノ支出徴收方法ヲ議定ス

第二條　區町村會ノ規則ハ其區町村ノ便宜ニ從ヒ之ヲ取設ケ府知事縣令ノ裁定ヲ受ケヘシ

第三條　數區町村聯合會ヲ開クトキハ其地方ノ便宜ニ從ヒ規則ヲ設ケ府知事縣令ノ裁定ヲ受ケ可シ

第四條　區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戸長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルトキハ其施行ヲ止メテ府知事縣令ニ戸長區長ヲ經テ指揮ヲ乞フコトヲ得

第五條　數區聯合會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ數町村聯合會ノ評決ハ地方ノ便宜ニヨリ戸長又ハ郡區長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルトキハ總テ前條ノ手續ニ從フヘシ

第六條　郡區長ニ於テ町村會若シ法ニ背クコトアリトスルトキハ之ヲ中止シ其評決ヲ不適當ナリトスルトキハ其施行ヲ止メテ府知事縣令ノ指揮ヲ乞フコトヲ得

第七條　府知事縣令ニ於テ區町村會及ヒ聯合會若シ法ニ背クコトアリトスルトキハ之ヲ中止スルコトヲ得又ハ之ヲ解散シテ改撰セシムルコトヲ得

第八條　水利土功ニ關スル公共ノ水利土功ニシテ全町村ノ利害ニ關渉セス或ハ數町村ノ幾分ノミ其利害ニ關係スルモノ又ハ利害ニ關係ナキモ從來組合等ノ爲メ町村會ノ決議ヲ以テ其關係アル人民若ノ慣行アルモノヲ云シタハ町村ノ集會ヲ要スルトキハ其地方ノ便宜ニ從ヒ規則ヲ設ケ府知事縣令ノ裁令ヲ受ケヘシ

第九條　前條ニ掲ケタル集會評決ノ施行及ヒ其取締ハ第四條ニヨリ第七

條ヤテノ手續ニ從フヘシ

第十條　第三條及ヒ第八條ニ掲ケタル集會ヲ要スルキ其關係アル區町村若クハ人民中異議アリテ其集會ニ應ゼザルキハ府知事縣令之ヲ府縣會ニ付シ其決スル所ニ依リ之ヲ定ムヘシ

但府縣會ノ閉會ニ當リ其開ヲ待ツヘカラサルキハ府知事縣令之ヲ決定スルコヲ得此場合ニ於テハ次ノ開會ニ於テ之ヲ報告スヘシ

○太政官第廿二號布告同六月廿四日　十二年

區會町村會ヲ開設セル地方ニ於テハ明治九年十月第百三十號布告（次ニ載ス）金穀公借共有物取扱土木起功ノ事項ハ總テ該會議ニ付シ施行スヘシ此旨布告候事

（備考）○太政官第百三十號布告同九年十月十七日

各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則自今左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條　凡ソ一區ニ於テ金穀ヲ公借シ若クハ共有ノ地所建物等ヲ賣買スル時ハ正副區戶長幷ニ其區内每町村ノ總代貳名ツヽノ内六分以上之ニ連印スルヲ要スヘシ

第二條　凡ソ町村ニ於テ金穀ヲ公借シ若クハ共有ノ地所建物等ヲ賣買スル時ハ正副區戶長幷ニ其町村内不動產所有ノ者六分以上之ニ連印スルヲ要スヘシ

但右不動產所有者ヨリ其總代ヲ撰ンテ之カ代理ダラシムルハ其都合ニ任スヘシ

第三條　凡ソ區内若クハ町村内ニテ土木ヲ起功スル時ハ其區ト町村ナルトヲ隨ヒ各第一條若クハ第二條ニ倣フヘシ

第四條　若シ第一條第二條及第三條ニ指示セル場合ニ於テ唯正副區戶長ノ印ノミヲ鈐シ其須要ナル連印ナキモノハ總テ之ヲ該區戶長限リノ私借若クハ私ノ土木起功ト看做スヘシ其正副區戶長ノ印ノミヲ以

テ共有ノ地所建物等ヲ賣買シタル者ハ總テ賣買ノ効ヲ有セス

○内務省乙第四十九號府縣達同十二年十一月廿日

本年太政官第廿二號（前ニ出ツ）公布相成候ニ付テハ客年當省乙第七十四號達ハ消滅候儀ト可相心得此旨相達候事

○山梨縣伺同十二年八月

本年第廿二號（前ニ出ツ）ヲ以テ金穀公借共有物取扱土木起功等ノ事項ハ總テ區町村會ニ付シ施行スヘキ旨公布相成候ニ付テハ右事項ニ係ル願書証書等ニハ九年第百三十號公布（前ニ出ツ）第二條ニ町村内ニ於テ不動産所有ノ者六分以上連署ヲ要スヘシトアルニ準シ議員ニ於テ連署スヘキ儀ニ候哉又ハ會議ニ於テ議決ノ上ハ右連署ニ及ハス其決議ノ旨ニ從ヒ戸長ニ於テ取扱可然哉

○内務省指令

書面ノ趣ハ連署ニ不及決議ノ旨ニ從ヒ戸長ニ於テ取扱候儀ト可相心得事

○山梨縣伺同十二年六月

縣會議員ハ町村會議員ニ撰舉シ得ラルヘキ哉又ハ相除クヘキ哉此段相伺

○内務省指令

書面縣會議員ハ町村會議員ニ撰舉スルヲ得ル儀ト可相心得事

○内務省乙第四十三號府縣達同十二年九月三十日

本年第十三號公布府縣會規則第十三條第二款（懲役一年以上及國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者ト改正ス）改正相成候ニ付テハ區會町村會モ右ニ準シ該規則中改正可致此旨相達候事

第四　地方税規則

（政正）○太政官第十六號布告　明治十三年四月八日

明治十一年七月第十九號布告地方税規則左ノ通改正候條此旨布告候事

地方税規則

第一條　地方税ハ左ノ目ニ從ヒ徴收スヘシ

一地租五分一以内

一營業税並雜種税

一戸數割

第二條　營業税雜種税ノ種類及制限ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　地方税ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ

一警察費

一河港道路堤防橋梁建築修繕費

一府縣會議諸費

一衛生及病院費

一府縣立學校費及小學校補助費

一郡區廳舍建築修繕費

一郡區吏員給料旅費及廳中諸費

一救育費

一浦役場及難破船諸費

一管内限リ諸達書及掲示諸費

一勸業費

一戸長以下給料及戸長職務取扱諸費

以上費目互ニ流用スルコヲ許サス

一豫備費ハ豫算外ニ生シタル不足ニ充ツヘキモノヲ云

各町村限及區限ノ入費ハ其區内町村内人民ノ協議ニ任セ地方税ヲ以テ支辨スルノ限ニアラス

第四條　其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一
二月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算並地方稅徵收ノ豫算ヲ
立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取リ其年五月ヲ以テ內務
卿及大藏卿ニ報告スヘシ

第五條　非常ノ費用ハ豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費
用豫備費ヲ以テ給足セサルモノヲ云別ニ賦課ス
ルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取リ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ
其急施ヲ要スル事項ハ府縣會ニ付セス便宜施行シテ後報告スルヲ得
此場合ニ於テハ之ヲ其後開ク所ノ府縣會ニ報告スヘシ

第六條　地方稅徵收期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第七條　府知事縣令ハ每年七月ニ至リ其一周年度間ノ出納ヲ計查シ精
算帳及計表ヲ製シテ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ且翌年通常會議ノ
初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報スヘシ

第八條　府縣會若シ豫算ノ議案ヲ議定セサルカ又ハ議案ヲ議定スルニ

及ハスシテ內務卿ヨリ閉會若クハ解散ヲ命シタルトキハ府知事縣令ノ
具申ニ依リ內務卿ハ前年度ノ豫算額ニ據テ徵收セシムルヲ得

第九條　嶋嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨ
リ內務卿ニ具狀シ其裁定ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之ヲ分別スルヲ
得

第十條　（十三年五月太政官第廿六號ヲ以追加）區ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經
テ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ其裁定ヲ得テ郡ノ經費ト之ヲ分別
スルヲ得

○太政官第廿七號布告同十三年
五月廿七日

東京府地方稅取扱方左ノ通被定候條此旨布告候事

第一條　東京府ノ營業稅雜種稅ハ府會ノ決議ヲ經テ內務大藏兩卿ニ具
狀シ政府ノ裁可ヲ得テ其制限ヲ殊ニスルヲ得

第二條　東京府ハ府會ノ決議ニヨリ水道費瓦斯燈費及ヒ火災豫防費ヲ

以テ地方稅費目中ニ加フルヲ得

○太政官第廿九號（使府縣ヘ達同十三年四月卅日）

官舍建築修繕費等官費ト相定候旨明治十年一月第十六號ヲ以テ相達置候處警察署分署建築修繕費ハ本年七月以後國庫下渡金ト地方稅ト連帶支辨スヘキ儀ト心得ヘシ此旨更ニ相達候事

第五　營業稅雜種稅種類及ヒ制限（改正）

○太政官第十七號布告（明治十三年四月八日）

明治十一年十二月第三十九號布告地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限左ノ通改正候條此旨布告候事

第一條　營業稅目左ノ如シ其制限金十五圓以內トス

但國稅アルモノヲ除ク

○會社　○卸賣商　○仲買商　○小賣商　○雜商

第二條　雜種稅ハ其種類ニ依リ各個ニ稅額ヲ定ム其目左ノ如シ

壹ヶ年金拾五圓以內

○製造所

○船　明治七年第二十一號布告舟漁船云々ノ分

○車　馬車　荷積馬車

　　人力車　荷積大七大八車

　　荷積中小車　荷積牛車ノ類

國稅ノ半額以內

○市場演劇其他興行並遊覽所

上ヲ高百分五以內

○遊技場　玉突　大弓　楊弓
○料理屋　西洋料理　吹矢ノ類　射的　待合茶屋　遊船宿　芝居茶屋　人寄席共　壹ヶ年金貳拾圓以内
○質屋　兩換屋　爲替店共　陸運又ハ廻漕ヲ以テ業トスル者　壹ヶ年金拾五圓以内
○古着古金古道具類　書畫骨董店共　書畫商　旅籠屋　諸飲食店　鰻屋　鮮菓屋　蕎麥屋ノ類　壹ヶ年金拾圓以内
○湯屋　理髮床　雇人請宿　壹ヶ年金五圓以内
○遊藝師匠　遊藝稼人　相撲　壹ヶ年金拾貳圓以内
○俳優　壹ヶ年金六十圓以内
○藝妓　壹ヶ年金四拾貳圓以内
○幇間　壹ヶ年金五圓以内
○水車　壹ヶ年壹頭ニ付金一圓以内
○乘馬　自用渡世共

○屠畜　壹頭ニ付金五十錢以内

第三條　漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其例規ヲ改正シ又ハ新法ヲ創設セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大臣兩卿ニ具狀シ裁可ヲ受クヘシ

第四條　府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取捨スルコヲ得

第五條　府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府縣會ノ決議ヲ以テ稅額制限內ニ於テ各個ノ稅額ヲ査定スヘシ

第六條　凡ソ稅額ハ一ヶ年ヲ以テ其制限ヲ定ムト雖モ各地ノ便宜ニ依リ年額ニ準據シ日稅月稅トシテ之ヲ徵收スルコヲ得

第七條　凡ソ上リ高ヲ以テ稅額ヲ定ムルモノハ各地ノ便宜ニ依リ上リ高見積リヲ以テ日稅月稅トシテ之ヲ徵收スルコヲ得

第八條　第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ內

務大藏兩卿ニ報告スベシ

第九條　第一條第二條第三條稅目ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クベシ

○內務省乙第十七號府縣達同十二年四月四日

客年第三十九號（營業稅雜種稅種類制限ノ一）ヲ以テ公布中各業ノ者ヘ鑑札下附候儀ハ不苦ト雖モ鑑札料手數料等ハ收入不致儀ト可相心得此旨相達候事

但シ鑑札下付ノ費用ハ警察上ヨリ下附スルモノハ警察費ヨリ支辨シ收稅上ヨリ下附スルモノハ地方稅廳中費ヨリ支辨可致儀ト可相心得事

第一章　戶長職務

第一款　戶長撰舉法

（參考）○東京府甲第五十四號布達明治十一年十一月一日

戶長撰舉法別紙ノ通相定候條此旨布達候事

戶長撰舉心得

第一條　戶長ハ本年府廳甲第五十三號布達（府下各郡內町村ヘ戶長配置ノ一）ヲ以テ定ムル所ニ依リ一町村或ハ數町村ニ一人ヲ公撰スベシ

第二條　戶長タルヲ得ヘキ者及ヒ之ヲ撰舉スルヲ得ベキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其町村ニ本籍住居ヲ定メ其町村ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル

但左ノ各款ニ觸ルヽ者ハ戶長及ヒ撰舉人タルコトヲ得ズ

第一款　懲役一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者

第二款　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘザル者

戶長撰舉法

G22502

第三條（十三年六月甲第六十號）撰舉ノ投票ハ其會場ニ於テ郡長ヨリ附與シタル用紙ニ被撰人ノ住所姓名ヲ記シテ之ヲ出スヘシ郡長ハ其投票ノ多少ヲ檢シ最モ多數ノ者ヲ以テ當撰人トシ同數ノ者ハ年長ヲ取リ同年ノ者ハ鬮ヲ以テ之ヲ定ム若シ當撰人其撰ヲ辭スルカ或ハ法ニ於テ不適當ナル時ハ順次多數ノ投票ヲ得タル者ヲ取リ本人并ニ撰舉人ニ示シ本廳ヘ具狀スヘシ

第四條（前註ニ同シ）補闕撰舉ノ前又ハ投票了ルノ後ト雖モ該町村ノ治否ニ關係スル事情アリト認ムルトキハ官撰ヲ以テ任スルコトモアルヘシ

第五條　戶長ハ三年毎ニ改撰ス

但前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得ヘシ

第六條（前註ニ同シ）戶長任期中ト雖モ第二條ノ各項ニ觸ルヽカ又ハ事故アリテ退職セシムルトキハ第三條ノ手續ニ依リ更ニ其闕ニ代ル者ヲ撰舉スヘシ

第七條　撰舉ノ會場及ヒ會日其他細則ハ郡長ノ定ムル所ニ從フヘシ

○兵庫縣伺同十一年

敎導職ノ者ヘ區戶長兼務等致サセ不苦哉

○內務省指令

事實差支ノ儀モアラハ兼務致サセ苦シカラス

○福島縣伺同十三年一月

戶長ヲシテ衛生委員ヲ兼ネシムルハ不苦哉相伺（電報）

○內務省指令（電報）

戶長ヲシテ衛生委員ヲ兼ネシムル儀ハ伺之通

第二款　戸長旅費

○内務省上申明治十三年一月十三日

刑事上裁判所ヨリ戸長呼出旅費及糧賣金其他書類等遞送費支出方ノ儀從來民費ヲ以テ支辨候向モ有之地方税改正施行後ニ至リ未タ一定ノ規則無之然ルニ各府縣ヨリ續々伺出候ニ付審按致候處右條件ハ固ヨリ戸長職務概目中ノ事項ニ非サルヲ以テ地方税ヨリ支辨スヘキ筋ニ無之專ラ刑事裁判ノ入費ニ係レハ自今戸長ノ旅費ヲ始メ諸遞送費等一切裁判入費ヨリ支辨致ス可然ト存候ニ就テハ該規則御制定無之テハ目下差支可申ニ付右ノ趣司法省ヘ御達相成候樣致度此段相伺候至急仰御裁定候也

○太政官指令明治十三年三月十日

伺之趣ハ戸長職務取扱諸費中ニ包含スルヲ以テ裁判費ヨリ支辨スヘカラサル儀ト可相心得事

第二章　布告布達ヲ町村内ニ示ス事

第一款　布告布達到達期限

（拾遺）○司法省丁第十一號明治十一年三月十五日

八丈島初七島布告布達到着日限ノ儀ニ付左ノ通東京府ヨリ太政官ヘ上申相成候趣通牒有之候間爲心得相達候事

（拾遺）○東京府ヨリ太政官ヘ上申十一年二月廿一日

明治七年四月第四十八號ヲ以テ布告布達期限御達相成候處管下伊豆國八丈島初七島ノ儀ハ海路險惡氣候ニ寄リ渡航難成場合モ有之成規ノ日限通屆難致候ニ付島々戸長役場ヘ到達後三十日ヲ經過セハ島民一般周知ノ儀ト見做ヲ度豫テ御聞置相成度此段上申仕候也

（拾遺）○司法省丁第廿五號達同十一年七月五日

布告布達類各地方管内掲示取扱方ノ儀ハ明治七年第四十八號公達ノ趣モ有之候處開拓使管内ニ於テハ是迄地理ノ不辨ヨリシテ若干ノ時日ヲ

費シ豫メ日限難相定ニ付其管内各所到達掲示ノ初日ヲ取極メ時々其筋ヘ上申相成來候處爾後郵便線路疏通實地沮滯ノ障碍無之ニ付自今左ノ通到達日限ヲ豫定シ右之公達ニ依リ取扱相成候旨通知有之候條爲心得此旨相達事

但シ千嶋國ニ限リ公布類到達ノ現日ニ據リ從前ノ通取扱相成候事

公布類到達日限

東京ヨリ

札幌本廳ヘ　廿五日

同

函館支廳ヘ　十八日

同

根室支廳ヘ　廿九日

第二款　府縣ノ布達ニ違犯スル者處分方

（拾遺）○太政官第十三號布告明治十年一月廿七日

各府縣廳ヨリ布達スル所ノ條規ニ違犯スル者ハ裁判官ニ於テ一圓五十錢以内ノ罰金ヲ科スベシ

○千葉縣伺同十年五月十一日

分合或ハ廢縣トナリシ舊縣從前ノ諸布達新管廳ニ於テ其儘存行スヘシ等ノ布達ナキモ特ニ取消ヲ達セザル以上ハ都テ消滅セザル儀ト相心得違犯ノ者ハ猶求罰可然哉

○司法省指令五月十八日

伺之趣舊縣ノ布達ト雖モ未タ廢止ノ命ナケレハ自ラ存在スル儀ニ付違犯スル者ハ求罰スル儀ト心得ベシ

第三章　地租及諸稅ヲ取纏上納スル事

第一款　地租金上納

（改正）○大藏省乙第三十號府縣達　明治十二年六月十八日

本年乙第十七號（甲編第三章第一款ニ出）ヲ以テ相達候國稅金領收順序附錄中第四雛形未納額帳書式及ヒ第二雛形甲乙切符別紙ノ通更正候條此旨相達候事

別紙

末納稅切符ト割印

地稅第何期納ノ內未納又ハ何稅何月何日納ノ內

一金何程

內

金何程

若殘金不納ナレハ殘金何程

不納額帳ヘ記入

何月何日納

何郡

何村

納稅切符ト割印

第二雛形

甲

明治何年分地稅

第何期納何年何月何日限　何郡何村

高金百圓之內　戶長

金九十圓　納人　何之誰

一金十圓　何月何日納濟

內

金五圓

外

金五圓　何月何日納

右可相納候也　不納

明治何年何月何日

乙

明治何年分地稅

第何期納何年何月何日限　何郡

金百圓之內　何村分

金九十圓　何月何日納濟

一金十圓

內

金五圓

外

金五圓　何月何日納

右現金何月何日大藏省爲換方ヘ何々銀行又ヘ相預ケ則上納仕候也　不納

何郡何村

明治何年何月何日　戶長　何之誰

（十二年九月四日大藏省乙第三十四號達ニヨリ之レヲ改正ス本文ノ條ニ出ス）

○大藏省書記官通達同　十二年六月廿五日

本年六月當省乙第三十號達書中第二雛形乙切符書式中「外金五圓」ノ下「不納」ノ二字ヲ脫ス其位置ハ甲切符ニ倣フベシ

○大藏省書記官通達同十二年八月六日

本年六月當省乙第三十號達書第二雛形甲切符書式中「戶長何之誰」ノ上ヘ「納人」ノ貳字ヲ脫シ押印ノ形ヲ脫ス

○大藏省乙第三十二號府縣達同十二年七月九日

明治十一年乙第七十二號（國稅金領收順序）ヲ以テ相達候稅金預リ所ノ儀大藏爲換方ト相稱候條此旨相達候事

別紙

○大藏省乙第三十四號府縣達同十二年九月四日

昨十一年十二月乙第七十二號（甲編第三章第一款ニ出ル）本年二月乙第拾號同三月第十七號（上ニ同シ）同六月乙第三十號（前ニ出ッ）達書中別紙ノ雛々訂正增補候條此旨相達候事

一明治十一年十二月乙第七拾貳號達國稅金領收順序中

第二項ヲ左ニ更正ス

一其爲換方ナル者ハ大藏省ニ於テ各地方適宜ノ場所ヲ擇ヒ之ヲ命スル者トス

第一丁第三丁第四丁及第一號雛形註解中「稅金預リ人」トアルヲ大藏省爲換方ト更ム第三丁「預リ書ヲ」ノ下「預リ人」トアルヲ爲換方ト更ム同丁「ノ許」ノ二字七行「預リ」ノ下「人」ノ一字第四丁「預リ人ノ」四字第六丁「各稅帳或ハ稅表及ヒ」ノ九字ヲ刪除シ第五丁「一週日」ヲ一旬日ト更ム

第一號雛形乙切符中「稅金預リ人何ノ誰」トアルヲ大藏省爲換方何々銀行又ハ何ト更ム

之誰

一明治十二年二月乙第拾號達中

第三丁第四丁及第二號雛形朱書「稅金預リ人」トアルヲ大藏省爲換方

ト更ム

第三丁第四丁一週日ヲ一旬日ト更ム

第一號雛形中「稅金預リ人何之誰」トアルヲ大藏省爲換方何々銀行又ハ何之誰ト更ム

第一號雛形中「明治何年分何稅」ノ下ヘ前(後)半期ノ割註ヲ增補スル字ヲ記スヘシ

同年三月乙第十七號同六月乙第三十號達國稅金領收順序附錄中乙第拾七號達中第三丁「預リ人」トアルヲ大藏省爲換方ト更ム

第壹號第二號第三號雛形中「稅金預人何之誰」トアルヲ大藏省爲換方何々銀行又ハ何之誰ト更ム

○大藏省乙第三十六號府縣達同十二年九月廿七日

稅外收入及ヒ諸返納金等國稅金領收順序ニ準擬納方可取計旨本年乙第二十六號ヲ以テ相達候處諸貸下返納金ニ限リ負債主ヨリ郡區役所ヘ取

立タル金額ハ預書ヲ作リテ當省爲換方ヘ相預ケ預リノ證印ヲナサシメ而シテ右預證書ハ郡區長ヨリ一旦本廳ヘ爲差出本廳ニ於テ該證書ヘ返納金仕譯書相添收稅委員ヘ及送付候儀ト可相心得候此旨相達候事

○大藏省乙第三十八號府縣達同十二年十月十四日

稅外收入及ヒ諸返納金其他經費殘餘ノ還納等當省ヘ納方ノ儀ニ付本年乙第十六號ヲ以テ相達置候處右領收證取扱方左ノ通收稅委員ヘ相達置候條爲心得此旨相達候事

一稅外收入及ヒ諸返納金其他經費殘餘ノ還納等ハ收稅委員ヨリ租稅局ヘ上納スヘシ

一租稅局ニ於テハ上納ノ順序ヲ經テ出納局又ハ國債局ノ領收證ヲ收稅委員ニ送附シ委員ハ之ヲ得テ府縣ニ送致シ曩ニ送致セシ委員ノ領收證ト交換スベシ

○大藏省乙第四十號府縣達同十二年十一月七日

地租金上納

本年當省乙第十號（甲編第三章第一款ニ出）ヲ以テ相達候納稅切符第二號雛形中「右現金」ノ下ヘ（何月何日）ノ四字ヲ挿入候條此旨相達候事

○大藏省乙第三號府縣達同十三年一月十二日

明治十一年十二月乙第七十二號（甲編第三章第一款ニ出）ヲ以テ相達候國稅金領收順序達書中委員領收證雛形追テ以下ノ十字ヲ削除候條此旨相達候事

○大藏省乙第十九號達同十三年五月六日

明治十年當省乙第廿三號ヲ以テ地租徵收仕譯書差出方相達シ置キ候處本年ヨリ差出ニ及バス候此旨相達候事

○大藏省乙第廿二號府縣達同十三年五月廿九日

諸貸下返納金納方順序之儀十二年乙第三十六號ヲ以テ相達候處右ハ收稅委員宛納證ヲモ相添委員ヘ及送付候儀ト可相心得此旨相達候事

○大藏省乙第廿三號府縣達同十三年六月十一日

商船舲車船漁船等ヘ修繕ヲ加ヘ爲メニ稅額ニ增減ヲ生シタルトキハ新調ト認メ更ニ該期ヨリ相當ノ稅金徵收候儀ト可相心得此旨相達候事

○大藏省乙第廿四號府縣達同十三年六月十九日

稅外收入及ヒ諸返納金等國稅金領收順序ニ準擬納方可取計客歲乙第廿六號ヲ以テ相達候處稅外收入ノ儀郡區役所ヘ取立タル金額ハ預ケ書ヲ作リテ當省爲替方ヘ相預ケ預リノ證印ヲナサシメ而シテ右預リ證書ハ郡區長ヨリ府縣廳ヘ爲差出府縣廳ニ於テ該證書ヘ別紙ノ通仕譯書及ヒ上納證相添收稅委員ヘ送付可致候事

（上納仕譯書雛形ハ府縣ノ事務ニ係ルヲ以テ之ヲ畧ス）

第二款　代米上納

○大藏省乙第三十五號府縣達　明治十二年九月十九日

明治十年十一月當省乙第三十九號（甲編第三章第二款ニ出）ヲ以テ田方地稅預リ米ノ儀相達置候處自今地稅改正ニ用ヒタル米價ヨリ時價下落ノ節ニ限リ聞屆候儀ト可相心得此旨更ニ相達候事

第三款　租稅未納者處分

○大藏省乙第廿六號府縣達　明治十三年六月廿一日

明治十一年二月當省乙第七號（甲編第三章第三款ニ出）ヲ以テ相達置候處左ノ箇條追加候條此旨相達候事

租稅未納ノ者公賣處分取扱方ノ儀

一公賣處分ハ納期後三十日ヲ過レハ其翌日ヨリ日數三十日以內ニ完了スベキモノトス

一若シ財產賣却代價不足ナル乎或ハ買請望人無之完納ノ場合ニ至ラサル分ハ處分濟ノ後日數十五日以內ニ勘定拂ヲ申稟スベシ

第四款　諸稅上納

○大藏省番外府縣達　明治十三年五月一日

明治十二年度以降諸稅地租ヲ各郡區總計額每半季分別紙手續ニヨリ調理シ年々一月十五日限酒類ハ十月ヨリ三月迄ヲ四月十五日限府縣地差立租稅局ヘ差出可申此旨相達候事

但十二年十二月酒類ハ十月ヨリ九月迄ヲ十月十五日限リ

明治十二年十二月酒類ハ十月以前ノ分ハ此達到着次第調理日數十日限リ可差出尤該料紙ハ總テ當省ヨリ相渡候事

總計表記入手續

一本表ハ每半季分ノ稅額ヲ記入スルモノトス故ニ稅金未納其他事故アリテ勘定拂ニ立ル欠額ノ如キハ現金計算ニ屬スルヲ以テ本表ニ關係セサルヘシ因テ現金收入上處分未定ノモノアルニ拘ハラス各郡區稅額確定次第直ヲニ調理差出スヘシ其記入手續ニ於ケル料紙中標目名稱ヲ彫付シアレハ多クハ說示ヲ要セスト雖モ亦標目名稱ノ得テ盡シ

カタキ廉アルヲ以テ之ヲ左ニ揭ク

一清酒稅表　濁酒、白酒、味淋、燒酎、銘酒、稅表ハ清酒ト其体裁同一トス此六表ノ高ヲ以テ釀造諸稅ノ全額トス

一酒類受賣稅表

一表中鑒札手數料ノ區ヘハ書換再渡及日數十五日以內廢業等手數料ノ高ヲ記入スヘシ

一行商鑒札料ノ區ヘハ新規鑑札料ト書換再渡手數料ノ高ヲ合記スヘシ

一煙草稅表　營業稅印紙稅ヲ合シ一葉トス

一表中卸賣小賣ノ區ヘハ各營業鑑札枚數ト稅金ノ高ヲ記入スヘシ

一鑑札ノ區ヘハ新規下ケ渡書換再渡及日數十五日以內廢業等ノ枚數ト手數料ノ高ヲ記入スヘシ

一仕入鑑札ノ區ヘハ初度下ケ渡ノ枚數ト鑑札料及書換再渡ノ枚數ト手數料ヲ各合記スヘシ

一出賣鑑札ノ區ハ仕入鑑札ニ同シ

一船稅表　西洋形蒸瀛並風帆船○日本形五十石以上○艀漁船並海川小廻船等ノ三葉ニ分ツ

一蒸瀛並風帆船及日本形五十石以上ノ表中未滿トアル區ハ五十噸以上百噸未滿五十石以上百石未滿ヲ首區トナシ百噸以上二百噸未滿ヲ次區トナシ其以下百噸ヲ增ス毎ニ船積ノ區域ヲ立標示トス

但シ蒸瀛並風帆船表中未滿トアル區ハ五十噸未滿ノモノヲ記入スヘシ

一員數ノ下タヘハ何艘ト記スヘシ噸數ノ下タヘハ何噸ト記ヲ以テ毎區分ノ高トス

一鑒札ノ區ヘハ書換再渡ノ枚數ト手數料ノ高ヲ記スベシ

一稅金ノ區ヘハ噸數計ヘ稅率ヲ乘シタル金高ヲ記入スヘシ

一艀漁船等ノ表中區分ノ下タ一間毎ノ區ヘハ何艘ト船數ヲ記入スヘシ

一延間數ノ區ヘハ增稅ノ間數ヲ記入スヘシ

假令ハ四間ハ一間五間ハ二間其以下順次總間數ノ內ヨリ三間ヲ扣除シタル餘數ヲ記入スヘシ

一稅金ノ區ヘハ船數ヘ十錢延間數ヘ七錢五厘ヲ乘シタル合金ヲ記入スベシ

一牛馬賣買免許鑑札稅表

一表中鑑札手數料ノ區ヘハ書換再渡及日數十五日以內廢業等手數料ノ高ヲ記入スヘシ

一賣藥稅表

一表中製藥營業ノ部鑑札ノ區ヘハ新規下ケ渡書換再渡及日數十五日以內廢業並施藥等ノ枚數ト手數料ノ高ヲ記入スヘシ

一受賣ノ部鑑札ノ區ヘハ新規下ケ渡書換再渡ノ枚數ト手數料ノ高ヲ記入スベシ

一行商ノ部鑑札ノ區ハ受賣ノ鑑札ニ同シ水火盜難鑑札ノ區ヘハ規則

第十七條ニヨリ下付シタル枚數ト手數料ノ高ヲ記入スベシ

一銃獵稅表

一表中免狀手數料ノ區ヘハ該稅則第六條ニヨリ收入シタル手數料ノ高ヲ記入スヘシ最モ遊獵ヲ前行ニ職獵ヲ後行ニ列記シ以テ遊職ノ區別ヲ立ツ其遊職ノ一方ナル片ハ金員ノ頭ニ遊職ノ一字ヲ冠ラスベシ

一十五日以內廢業手數料ノ區ハ免狀ノ記入方ニ同シ

一證券印紙稅

一界紙稅表ハ印紙稅表ト其体裁同一トス此二表ノ高ヲ以テ證券印紙諸稅ノ全額トス

一訴訟並文通用罫紙稅表

一車稅表

一米商會所稅表　以下三種ヲ合シ一葉トス

一版權免許料表

一度量衡稅表

一株式取引所稅額　以下二種ハ料紙ヲ渡サス每半季分稅額便宜取調差出スヘシ

一横濱取引所稅額

以上各種稅表ニ對シ揚記スルノ外若シ標目名稱ニ相當シカタキモノアレハ適宜ノ區域ニ記入シ尙其金員ト事由ヲ付箋スヘシ

大藏省

第四章　戸籍之事（編者曰戸籍ニ係ル官令指令等ハ極メテ多数ニ渉ルヲ以テ唯一二ヲ採録スルノミ委シクハ余カ別ニ編纂セシ戸籍類纂初版ニ就テ見ルベシ）

第一款　編制法

○宮内省乙第二號府縣達　明治十二年五月七日

華族ノ輩判任官以下並傭等ニ採用ノ節ハ差支有無當省ノ伺ヲ經候樣明治九年三月華第二號ヲ以テ相達置候處自今無位ノ子弟採用ノ節ハ伺出ニ不及候此旨相達候事

但戸主並有位ノ輩ハ從前ノ通可相心得事

○内務省乙第十一號達　同十二年三月四日

從來開業ノ醫師他管ヘ轉籍寄留ノ節ハ新規開業ト着做シ學術試驗可致旨及指令或ハ地方ノ見込ニヨリ適宜ノ處分ニ任セ候向モ有之候處右ハ試驗ニ不及候條自今他管ヘ移住ノ節ハ元管廳ノ添書ヲ請ヒ從來開業ノモノタルヲ證シ移住ノ管廳ヘ爲願出開業許可候樣可取計此旨相達候事

○開拓使甲第四號布達　同十二年四月卅日

各府縣ヨリ北海道ニ送籍移住スル者當使附屬船ニ乘組渡航セントスル時ハ左ノ手續ヲ以テ取扱候條此旨布達候事

北海道送籍移住者渡航手續

第一條　開拓使附屬運船ニ乘組北海道ニ送籍移住セントスル者ハ其管轄郡區役所ヘ申出其事由ヲ述タル副輸ト送籍狀トヲ持參シ該船長ノ檢査ヲ經テ乘船スベシ（但書十二年六月甲第五號ヲ以テ追加本文ハ後ニ出ツ）

第二條　第一條ノ手續ヲ經タル者ハ乘船幷ニ手荷物ニ限リ無賃タルヘク其餘ノ荷物ハ定ノ運賃高ヨリ三分ノ二ヲ減シタル額ヲ徴收ス

但發着ノ艀賃及ヒ船待滯留中ノ費用ハ自辨タルベシ

第三條　品川灣ヨリ函館小樽ヘ後志國ノ二港ヘ

函館港ヨリ小樽根室根室國ノ二港ヘ

青森港ヨリ陸奥國函館港ヘ津輕郡

右ノ港灣ハ毎月船便アルニヨリ第一條ノ手續ヲ經タルモノハ乘船便宜ノ地ニ出テ發船ノ期ヲ待ツベシ

但出船ノ遲速ニ依リ滯留ノ長短アルハ勿論ニ付出船ノ期日ヲ豫知セント欲スルモノハ郡區役所或ハ移住本人ヨリ開拓使函館支廳東京出張所ノ內ヘ電信ヲ以テ照會アラハ其期日ヲ電信ニテ報告スベシ

第四條　第三條ニ揭ケタル港灣ノ外ト雖トモ移住者五人以上一時ニ渡航セント欲セハ其請願ノ場ニ回船スベキニヨリ其管轄郡區役所ヘ申出テ該役所ニテハ其人員幷ニ荷物ノ數手荷物ノ數ハ算入セス發着地名等ヲ詳記セシ書面ヲ以テ其事ヲ函館支廳東京出張所ノ內ヘ報告スベシ其報告ヲ得タル廳ニ於テハ其請願ニ應スヘキ由ト回船ノ日トヲ電信ニテ報告スベシ

（追加）○開拓使甲第五號布達　同十二年六月十九日

本年甲第四號布達北海道送籍移住者渡航手續第一條ヘ左ノ通但書追加候條此旨布達候事

但養子或ハ結婚等ノ爲メ送籍スルモノヽ如キハ本文ノ限ニアラス

○內務省甲第十號布達　同十二年七月十日

小笠原嶋ヘ出稼トシテ移住及寄留等ニテ航海致候儀ハ當分差止候條此旨布達候事

○太政官第四十五號使府縣達　同十二年十一月十一日

府縣社以下祠官祠掌ノ等級ヲ廢シ身分取扱ハ一寺住職同樣タルヘシ此旨相達候事

○內務省戊第二號神佛各管長達　同十二年十月廿七日

教導職試補申付方ノ儀自今年齡二十年未滿ノ者ハ特別之見込有之分ニ限リ性行學術履歷等取調當省ヘ伺出許可ノ上可申付此旨相達候事

○內務省乙第四十八號府縣達　同十二年十一月十四日

本年十一月第四十五號（前ニ出ツ）ヲ以テ公達ノ趣ニ付自今府縣社以下祠官祠掌進退ノ節者八年五月教部省第十八號（氏子總代幷同區内ニテ重立候神官二名以上連署ノ上願出ルヿ）ヲ以テ達書ノ手續ニ準シ爲願出候上於其地方廳許可スベシ此旨相達候事

但出願ノ節地方官ニ於テ許可難致事情有之モノハ委詳具狀當省へ處分方伺出ツベシ

○内務省戊第四號神佛各管長へ達同十二年十二月八日

各宗派内ニ於テ今後履行スヘキ教導職試驗方法精密取調至急差出スベシ此旨相達候事

但該方法ニ付追テ何分之儀相達候迄試補申付ハ勿論試補ヨリ本職へ撰擧方可見合事

第二款　婚姻法

○陸軍省甲第十二號布達明治十二年七月五日

陸軍々人結婚ノ節出願ノ儀別紙ノ通相定候ニ付テハ自今後備軍籍ニ在ル者結婚ノ節ハ郡區長及ヒ戸長ノ奥書証印ヲ以テ直ニ其府縣駐在官へ差出候樣可取計此旨相達候事

但離婚若クハ其婦ノ死去スル時ハ亦本文ニ準シ速ニ駐在官へ届出候樣可致事

別紙

陸軍武官恩給令發行相成候ニ付テハ自今軍人結婚ノ節ハ願書差出可得許可事

但準士官以上ハ各所管長官ヲ經テ本省へ差出シ下士以下常歸服役ノ者ハ所管長ニ於テ聞届後備軍籍ニ在ル者ハ駐在官へ願書差出シ後備軍司令長官ニ於テ可聞届尤準士官以上以下ニ追テ婚姻相整候節本人

ヨリ爲届出下士以上ハ報告規則ニ依リ報告可致事

○橡木縣伺同十三年七月

養子戸主トナリシ後最初ヨリノ契約ニ因リ養父ノ實子ヘ家督相讓リ候際右戸主ノ女子ヲ以テ養父ノ實子ヘ配偶爲致度旨出願ノ者有之甚不都合ニハ候得共家内親睦上ニモ關係有之實際不得止情實モ有之候ニ付一旦他家ノ養子トナシ更ニ結婚爲致候儀不苦候哉至急何分ノ御指揮有之度此段相伺

○内務省指令

書面伺之趣親戚協議ノ上ハ伺之通

○橡木縣伺同十三年七月

家女ニ非ザル一戸主ノ實養母再嫁ノ儀ハ實家ヘ復籍ノ上結婚可爲致ノ處實家死亡退轉シ復籍スルニ由ナキ者ハ直ニ再嫁爲致不苦候哉何分ノ御指揮有之度此段相伺

○内務省指令

書面伺之通

第三款　繼承法

○太政官第三號布告　明治十三年一月廿九日

華士族當主死亡相續人無ク親族協議ノ上家名預リ置追テ相續人ヲ定ムルハ當主死亡後日數五十日ヲ過クヘカラス若シ不得已事情有之親族連印管轄廳ヘ延期願出ルモノハ更ニ相當ノ猶豫ヲ與フルト雖モ死亡後六ケ月ヲ過キ仍ホ相續人ヲ届出サルトキハ其族稱ハ廢絕候儀ト可相心得此旨布告候事

○愛知縣伺　明治十三年六月

第一條　茲ニ甲家ノ戸主（ルモノ）單身又ハ家族ヲ我家名ヲ廢シ乙某ノ絕家ヲ再興センコトヲ願出ルアリ熟々情實ヲ質スニ甲家ニ財產無之殆ント活路ニ窮シ候ニ付乙絕家ニ附屬スル幾許ノ財產ヲ得テ活路ヲ開ンコトヲ企望スル者ナリ右ハ活路ノ爲メ無餘儀事情ニ出ルモノト雖モ我カ祖先ノ家名ヲ廢絕シ却テ乙ノ絕家ヲ再興スルハ條理ニ於テ不都合ニ付許可不相成候乎

第二條　前條果シテ許可不相成モ甲家ノ戸主ハ丙家某ノ子弟ニシテ昔年分家セシ者ナルヲ以ハ自家ヲ廢絕スト雖モ若シ初代ノ者ニシテ敢テ祖先ヲ祭祀ヲ絕ツニ非ス丙家某協議ノ末願出ルヲ以ハ情願ニ任セ許可致シ不苦候乎

右兩條相同候ニ付至急御指令有之度候也

○内務省指令

書面ノ趣雙方親屬協議出願スル者ハ十年六十號（甲編第四章第二款ニ出）公達ニ準シ總テ聽許不苦事

○岡山縣伺　同十三年六月

第一條　茲ニ一家アリ子女十八ヲ生育スル而シテ金一萬圓ヲ所有スル則各子女ヘ一千圓金ヲ分與シ別籍或ハ分家各男子ハ年齡二十一年以上爲致宗家ノ

關係ヲ離レ銘々獨立セシメ而シテ各自存意ノ姓ヲ更ニ設ケ爲相稱度旨親戚協議ノ上願出ル者有之節ハ情願ニ任セ可然哉

第二條　妻タル者一身上ノ儀ニ付テハ生家ノ姓可相稱旨曾テ諸縣ヘ御指令ノ次第モ有之候處妻幷妾タル者夫家離婚ノ末實家ニ復歸セス獨立營業ノ見込有之夫家ノ姓ヲ相稱度旨双方親族協議ノ上願出候者有之節ハ情願ニ任セ可然哉

第三條　夫死亡後該家相續遺妻情願ニ依リ實家ニ復セス亡夫ノ家ヨリ直ニ別籍シテ生家ノ姓ヲ相稱候ヒ又ハ夫家ノ姓ヲ相稱候ヒ親戚熟議ノ上願出候ハヽ聞屆不苦候哉

右之通相伺候也

○内務省指令

伺之趣左ノ通心得ベシ

第一條第三條　分家スル者ハ總テ其本家ノ姓氏ヲ稱用スヘキ儀ト心得ベシ

但事情無餘儀者ハ伺之通

第二條　既ニ離縁シタル妻妾ハ直ニ生家ヘ復籍スヘキ筈ニ付夫家ニ於テ分家スベキモノニアラス

○和歌山縣伺同十三年六月

茲ニ本家相續ノ戸主病死シ幼年ノ遺子該家ヲ繼承ス然ルニ其家ニ於テハ祖父アリテ之ヲ後見スト雖ヒ其祖父亦老衰シテ家事ヲ綜理スルニ耐ヘス爲ニ家計漸ク衰頽ニ陷リ候ニ付不得已場合ヨリ其分家ノ戸主丁年以上即チ本家當主ノ從兄ヲ迎ヒ該家ヲ繼續セシメ上ハ分家ハ其父隱居再相續ス更メテ其當主ヲ以テ已カ嗣子トナシ成長ノ後家督相讓度旨親戚連署出願者有之右ハ假令當主ハ幼年ナルモ顯然戸主ノ名義ヲ有セル者ヲ開キ分家ノ戸主ヲ以テ迎ヒ該家ヲ繼續致サセ候儀ハ不都合ニ渉リ候得共又情實ニ於ケル一家ノ興廢ニモ相關シ殊ニ本分家ノ情誼ニ於

テ實ニ無餘義次第ニ付全ク双方ノ協議ニ出候上ハ願意聞届可然哉爲
念一應相伺候條至急何分ノ御指揮相仰候也

○内務省指令

書面聞届不苦候事

○愛媛縣伺同十三年七月

凡ソ絶家ヲ再興スルハ其身絶家ノ親族及ヒ縁故アルモノニ限ルベキ儀ニ候哉又ハ師弟ノ間或ハ同郷僚友ノ舊誼ニ據リ他ノ因縁ナキ者ヲ以テ再興シ其祭祀ヲ嗣續セシメンコトヲ願フモノモ亦聽届不苦筋ニ候哉至急御指令相成度此段相伺

○内務省指令

書面伺之趣聞届候事

但親屬有之時ハ其協議ノ上可聞届儀ト可心得事

○岐阜縣伺同十三年七月

戸主幼年ニシテ後見人ヲ立ツルニ當リ親戚中相當ノ者無之節其父母又ハ家産ニ有益ナル他ノ婦女ヲ以テスルモ妨ケナキ儀ニ候哉此段相伺

○内務省指令

書面伺之趣親屬協議出願候者ハ伺之通

但他ノ婦女後見人ト相成候ハ戸主ニ限ルベシ

○大坂府伺同十三年八月

一家ノ二三女ナシテ致分家候後入夫ヲ迎ヘ家名相續候節右入夫ヨリ妻ノ父母ヲ以テ養父母ニハ相當不申候哉此段相伺

○内務省指令

書面伺之通

○青森縣伺同十三年四月

常備兵役ヲ免ヘザル前分家等致候儀不相成云々明治十一年八月第二

十號公布（甲編第四章第三款ニ出ツ）相成居候處十二年十月第四十六號公布（本編第五章第一款ニ出）但書ニ徴兵令ニ關スル從前ノ布告達及ヒ指令ハ渾テ廢止スト之有ニ付テハ右二十號公布ハ消滅候儀ト相心得可然哉此段相伺

○陸軍省指令

伺之通

第五章　徴兵下調ノ事（編者曰徴兵事務條例及其他徴兵ニ係ル公布指令等許多有テ一々之レヲ登記スレハ甚冗長ニ渉ルヲ以テ本編ハ唯下調ニ關スル要件ノミヲ擧ケ委シクハ余カ別ニ編纂スル改正徴兵事務官必携及同書追纂等ニ就テ見ヨ）

第一款　徴兵編制

○太政官第四十六號布告　明治十二年十月廿七日

徴兵令別冊ノ通改正候條此旨布告候事

但徴兵令ニ關スル從前ノ布達及指令ハ渾テ廢止トス

別冊

徴兵令

第一章　徴兵編制

第一條　徴兵ハ全國ノ男子ヲ徴集シ以テ兵役ニ充ル者ナリ今陸軍ヲ大別シテ四トス常備軍豫備軍後備軍國民軍是ナリ又其兵丁ノ身材ニ從ヒ歩騎砲工等ノ兵種ニ區別ス

但海軍徴兵ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第二條　常備軍ハ男子年二十歳ニ至ル者ヲ各軍管下ノ國郡ヨリ徵集シ其當籤者ヲ以テ之ヲ編制シ三ケ年ノ役ニ服セシメ所管鎭臺ニ備フル者ナリ

第一項　殊ニ技藝ニ熟スル者平時ハ服役未タ終ラスト雖モ詮議ノ上假ニ歸鄕ヲ許スベシ

第二項　强壯ニシテ技藝ヲ熟シ行狀正シキ者ハ在營六ケ月ニシテ近衛兵ニ拔擢シ更ニ三ケ年ノ役ニ服セシメ役終ルノ後豫備軍ニ編入シ二ケ年六ケ月ノ後々備軍ニ編入ス

但近衛兵編制ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第三項　上下士官ト爲ンコトヲ志願スル者ハ撿查格例ニ照シ士官學校又ハ敎導團ニ入ラシム

第四項　技藝ニ熟シ且才氣アル者ハ之ヲ拔擢シテ下士ニ任ス

第三條　輜重輸卒看病卒幷ニ職工ハ各其志願者ヲ徵募スト雖モ若シ不足スルトキハ丁壯ノ身幹定尺ニ滿タス又ハ銃器ヲ執ルニ適應セザル者或ハ合格ノ者ト雖モ各自ノ職業ニ依リ便宜ヲ以テ諸兵ト同シク徵集シ該役ニ服セシムルコトアルベシ

第一項　輜重輸卒トシテ徵集スル者ハ六ケ月間常備軍役ニ服セシメ役終レハ豫備軍ニ編入シ五年六ケ月ノ後更ニ後備軍ニ編入ス

第二項　看病卒幷ニ職工トシテ徵集スル者ハ服役諸兵ト異ナルコトナシ

第四條　常備軍在營中ハ定額ノ日給ヲ與フ其他食料服類共官給タルベシ

第五條　豫備軍ハ三ケ年ノ役ヲ終リシ者ヲ以テ之ヲ編制シ更ニ三ケ年ノ役ニ服セシメ常ニ家居シテ產業ヲ營マシム而シテ戰時或ハ非常ノ事故アル時ニ當リテハ直ニ之ヲ召集シ常備軍ニ加ヘ其員ヲ充實シ又ハ別ニ隊伍ニ編制シ從軍セシムルモノナリ故ニ每歲一度屯營ニ召集シ

其技藝ヲ復習セシム

第六條　後備軍ハ豫備軍三ケ年ノ役ヲ終リシ者ヲ以テ之ヲ編制シ更ニ四ケ年ノ役ニ服セシメ豫備軍ニ次テ召集スル者ナリ故ニ平時ニ於テハ毎歳一度便宜ノ地ニ召集シ其技藝ヲ復習セシム

第七條　兵役期限已ニ滿ル者ト雖モ戰時ハ勿論非常ノ事故アル時ハ其期限ヲ延スコトアルベシ

第八條　國民軍ハ全國ノ男子十七歳ヨリ四十歳迄ノ人員ヲ兵籍載ニセ置キ全國大擧ノ役アルニ當リ時機ニ從ヒ隊伍ニ編制シ以テ守衛ニ充ル者ナリ

○陸軍省第一號達　明治十二年十一月十一日

今般第四十六號布告徵兵令改正相成候ニ付從前之第一後備軍ヲ豫備軍第二後備軍ヲ豫備軍ト改稱右在籍之者服役年期計算之義別紙之通可相心得此旨相達候事

第一後備軍ヲ豫備軍ト改稱シ第一後備軍ヘ服役中ノ者ハ最初第一後備軍ヘ編入セシ年ノ四月廿日ヨリ起算シ三ケ年ノ役ニ服セシメ豫備滿期ノ後成規ノ如ク後備軍ヘ編入スベシ

但定期ニ非スシテ臨時第一後備軍ヘ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ三ケ年ノ役ニ服セシメ豫備軍滿期ノ後成規ノ如ク後備軍ヘ編入スベシ

第二後備軍ヲ後備軍ト改稱シ第二後備軍服役中ノ者ハ最初第二後備軍ヘ編入セシ年ノ四月廿日ヨリ起算シ四ケ年ノ役ニ服セシムヘシ

但定期ニ非スシテ臨時第二後備軍ヘ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ四ケ年ノ役ニ服セシムベシ

常備輜重輸卒ハ抽籤番號順序ヲ以テ二十分ノ一乃至十分ノ一ヲ入營セシメ其他鄉里ニ在テ常備役ヲ帶ハシムベキ成規ニ候處其鄉里ニ在

○岩手縣伺同十三年四月

徵兵編制

ルモノ譬ヘハ官吏並郡村吏ニ採用スルカ又ハ公立學校教員ニ撰擧致候儀臨時復習或ハ非常ノ節入營等無故障召集ニ應セシムベキモノトナシ任用不苦哉御指揮相成度此段相伺候也

○陸軍省指令

伺之趣常備服役中ハ鄉里ニ在ルト雖モ官吏或ハ郡村吏ニ任用難相成候儀ト可心得事

第二款　徴兵區々域

○太政官第四十六號布告　明治十二年十月廿七日

別冊徴兵令ノ內

第二章　徴兵區々域

第九條　凡ソ全國ヲ別ツテ七大徴兵區トシ各軍管ノ區域ニ從フ者之ヲ軍管徴兵區トス軍管ニ包轄スル師管ノ區域ニ從フ者之ヲ師管徴兵區トシ師管ニ包轄スル旅管ノ區域ニ從フ者之ヲ旅管徴兵區トシ旅管ニ包轄スル聯隊區域ニ從フ者之ヲ聯隊徴兵區トシ聯隊區域ニ包轄スル大隊區域ニ從フ者之ヲ大隊徴兵區トシ大隊區域ニ包轄スル中隊區域ニ從フ者之ヲ中隊徴兵區トス

但シ旅管以下ノ徴兵區ハ現今未タ之ヲ設置セス故ニ姑ク使府縣ノ管地ニ從ヒ之ヲ使府縣徴兵區トス

第十條　使府縣徴兵區ハ一使府縣ヲ一徴兵區ト爲スト雖モ其管地兩師

軍管ニ跨ル者ハ每師管ニ一徵兵區ヲ設置スル者トス

第十一條　第七軍管ノ徵兵ハ未タ全部ニ行ハザルヲ以テ姉ノ之ヲ第二軍管ノ管轄ニ屬ス

第三款　徵兵官員及ヒ其職掌

○太政官第四十六號布告　明治十二年十月廿七日

別冊徵兵令ノ內

第三章　官員及ヒ其職掌

第十二條　徵兵使

陸軍佐官一人之ニ任ス使府縣ニ出張シ使府縣徵兵事務長ト議シ徵兵ノ事務ヲ掌ル

但シ時宜ニ由テハ副使ヲ遣シ代理セシム

第十三條　徵兵副使

陸軍尉官ヲ以テ之レニ任ス人員ハ概ネ一師管徵兵區ニ二人或ハ三人トス正使ヲ佐ケ使府縣徵兵事務官及ヒ徵兵副署官ト共ニ徵兵檢查所ヲ巡行シ徵兵檢查抽籤等ノ事務ヲ掌ル

第十四條　徵兵醫官

陸軍々醫一人之レニ任ス徴兵使ニ從ヒ兵丁ノ身材骨格兵役ニ適スルヤ否ヲ檢査スル事ヲ掌ル

第十五條　徴兵副醫

陸軍々醫副以下試補以上ヲ以テ之レニ任ス人員ハ概ヲ一師管徴兵區ニ三人或ハ四人トシ徴兵副使ト共ニ徴兵檢査所ヲ巡行ス職掌徴兵醫官ニ同シ

第十六條　徴兵事務官

官後備軍使府縣駐在官一人之レニ任ス使府縣徴兵事務官ト共ニ郡區ヲ巡行シ徴兵下檢査ノ事ヲ掌トリ又徴兵署ニ出頭シ同署ノ事務ヲ補助ス

第十七條　徴兵書記

陸軍下士或ハ軍屬十等以下十七等迄ノ者ヲ以テ之レニ任ス人員ハ二人或ヒハ三人トス徴兵使ノ諸記錄ヲ掌ドル

第十八條　使府縣徴兵事務長

地方長官或ヒハ書記官ノ内一人之レニ任ス管内徴兵ノ事務ヲ掌ル

第十九條　使府縣徴兵事務官

使府縣屬官ヲ以テ之ニ任ス人員ハ概ヲ徴兵副使ノ數ニ準ス徴兵副使ト共ニ徴兵檢査所ヲ巡行シ使府縣徴兵事務長ノ職掌ヲ補助シ又徴兵事務官ト共ニ郡區ヲ巡行シ徴兵下檢査ノ事ヲ掌ドル

第二十條　郡區徴兵事務官

郡區長ヲ以テ之ニ任ス人員ハ一郡ニ一人トス徴兵ノ事ニ付キ公文ヲ布達シ民情ヲ上申シ又其郡内徴兵取調ノ事ヲ掌ル

但郡區長已ムヲ得ザル事故アルトキハ郡區書記ヲ以テ代理セシム

第廿一條　地方徴兵醫員

地方長官ノ撰ヲ以テ之ヲ命ス人員ハ概ヲ徴兵八十名乃至百名ニ一人トス徴兵身體ノ下檢査ヲナシ又徴兵醫官ノ指揮ニ從ヒ檢査ノ事件ヲ

記錄ス

第廿二條　筆生

地方長官ノ撰ヲ以テ之ヲ命ス人員ハ概ネ一檢查所ニ二人トス檢查抽籤等ノ件々ヲ記錄シ又下檢查所筆記ノ事ヲ掌ル

第廿三條　徵兵使々府縣徵兵事務長及ヒ徵兵醫官ハ使府縣徵兵署ニ出頭シ徵兵副使徵兵副醫官及ヒ使府縣徵兵事務官等ハ分派シテ各徵兵檢查所ヲ巡行スル者トス

第廿四條　徵兵使巡行ハ二月十五日ヨリ始メ第三章中ニ揭グル所ノ陸軍官員一行トナリ使府縣ニ出張シ地方ノ諸官ト合議シ便宜ノ地ニ於テ徵兵署ヲ開設シ總テ徵兵ニ關スル事務ヲ管理シ四月十日ヲ以テ復命スル者トス

第廿五條　徵兵使ハ使府縣ヨリ鎭臺ヘ出シタル徵集名簿ヲ點檢シ其使府縣ノ徵兵年齡相當ノ人員ニ應シ本年徵集スベキ常備補充ノ人員ヲ配當シ又除役免役等ノ箇條書ヲ調查ス

第廿六條　徵兵諸官ハ本年ノ徵兵事務竣レハ悉ク其職ヲ解クモノトス

○埼玉縣伺同十三年三月

徵兵令第三章第廿二條筆生人員ハ概ネ一檢查所ニ二人トアリ然ルニ徵兵署檢查所ニ右人員ニテハ實際ノ事務難行屆存候間前顯徵兵署檢查所設置ノ所ヘハ筆生二名增員御允許相成度此段相伺

○陸省指令

伺之趣檢丁人員夥多ニシテ實際難行屆ニハ徵兵使ト協議ノ上增員可取計事

第四款　除役免役及ヒ徴集猶豫

○太政官第四十六號布告　明治十二年十月廿七日

別冊徴兵令ノ内

第四章　除役免役及ヒ徴集猶豫

第二十七條　左ニ揭ル者ハ終身兵役ヲ除ス

第一項　癈疾又ハ不具等ニシテ陸軍醫官檢查規則ニ照シ兵役ニ堪エヘカラザル徴候アル者

第二項　懲役一年以上及ヒ國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者

第二十八條　左ニ揭ル者ハ國民軍ノ外兵役ヲ免ス

第一項　戸主

但徴兵年齡以前ニ分家シ又ハ新タニ分家シタル女戸主ニ入婿シ或ハ絕家ヲ再興シ及ヒ年齡五十歳未滿ノ者隱居シ養子又ハ相續人ニシテ其跡ヲ續キタル戸主ハ此限ニ非ス

第二項　獨子嗣子獨孫承祖ノ孫

但姉妹ノ有無ヲ問ハス

第三項　年齡五十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

但徴兵年齡以後ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ヲ分家シ或ハ五十歳未滿ノ者ノ養子本家ノ故ヲ以テ已ムトシ又ハ絕家ヲ再興シ或ハ新タニ分家シタル女戸主ニ入婚シ其他ノ子孫ヲ以テ徴兵年齡以前ニ更ニ定メタル嗣子或ハ承祖ノ孫ハ此限ニ非ス

第四項　年齡五十歳以上ニシテ嗣子ナキ者ノ養子嗣子或ハ相續人

但隱居後別家シテ特ニ定メタル嗣子或ハ相續人ハ此限ニ非ス

第五項　年齡五十歳未滿ト雖モ癈疾又ハ不具等ニシテ産業ヲ營ム能ハサル者ノ嗣子承祖ノ孫及ヒ養子嗣子或ハ相續人

第六項　官吏判任以上及ヒ教導職試補以上並ニ戸長

第七項　府縣會ノ議長副議長及ヒ議員

第八項　公立學校教員及ヒ文部省所轄並ニ其他省使ニ屬スル官立學校教員

第二十九條　左ニ揭クルモノハ平時ニ於テ兵役ヲ免ス

第一項　年齡五十歲未滿ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

但徵兵年齡以後ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ヲ分家シ或ハ五十歲未滿ノ者ノ養子本家ノ故ヲ以テ已ムトシ又ハ絕家ヲ再興シ或ハ新タニ分家シタル女戶主ニ入婿シ其他ノ子孫ヲ以テ徵兵年齡以前ニ更ニ定メタル嗣子或ハ承祖ノ孫ハ此限ニ非ス

第二項　陸海軍生徒幷ニ海軍兵器局及ヒ造船所定雇職工

第三項　陸海軍常備在役中死沒又ハ公務ニ因リ疾病或ハ傷痍ヲ受ケ退隱セシ者ノ兄或ハ弟一人

但豫備軍又ハ後備軍服役中公務ニ起因シタル疾病死沒亦此例ニ

準ス

第四項　醫術開業免狀ヲ所持スル者

第五項　公立使府縣ノ設立ニ係ル以下師範學校ニ於テ卒業ノ者公立トス郡スル者之ニ同シ

第六項　公立中學校及公立專門學校ニ於テ卒業ノ者

第七項　文部省所轄官立學校及其他省使ニ屬スル官立學校ニ於テ卒業ノ者

但官立師範學校附屬小學校ノ生徒ハ此限ニ非ス

第八項　外國ニ留學シテ二ケ年以上ノ學科ヲ終リタル證書ヲ所持スル者

第九項　海員試驗免狀規則ニ遵ヒ船長運轉手及ヒ機關手ノ免狀ヲ所持スル者

第十項　海員雇入雇止規則ニ遵ヒ三年以上海上ニ在テ水火夫ノ業ヲ執リタルコヲ証明スル者

第三十條　左ニ掲ル者ハ平時ニ於テ一ケ年ヲ限リ徵集ヲ猶豫スヘシ

第一項　海軍兵員トナラントスル志願ヲ許ス者

第二項　兄弟同時ニ徵兵ニ當ル者偶數ハ其半數奇數ハ其寡數例ハ三人ハ二人ハ一人他皆之ニ倣フ

第三項　陸海軍常備在役中ノ下士卒ノ兄或ハ弟一人

第四項　陸海軍生徒ノ兄或ハ弟ノ中一人不合格ナル時ハ此例ニアラス

但本縣第二項乃至第四項ノ場合ニ於テ其兄或ハ弟ノ中一人

第五項　父及兄或ハ父ナクシテ兄失踪又ハ癈疾不具等ニテ產業ヲ營ムコト能ハス本人ヲ要セサレハ一家ノ生計ヲ失フ者

第六項　文部省所轄幷ニ其他省使ニ屬スル官立學校及ヒ公立師範學校ニ於テ修業一ケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒

第七項　公立中學校及ヒ公立專門學校ニ於テ修業三ケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒

第八項　學術修業又ハ商用等ニテ外國ヘ寄留スル者

第九項　身幹未タ定尺ニ滿タス又ハ疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ仍ホ未タ勞役ニ堪ユコト能ハサル者

第十項　刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第三十一條　官省院使廳縣準官吏御用掛御雇等ハ之ヲ免役セスト雖ヒ餘人ヲ以テ代フヘカラサル事務ヲ奉スル者ノ如キハ特ニ太政官ニ具狀シテ裁決ヲ請フヘシ

但諸省院使府縣雇人外國人ニ附屬シ官費ヲ以テ技藝傳習中ノ者亦本條ニ準スヘシ

第三十二條　第廿八條（國民軍ノ外兵役ヲ免ス）第一項（戶主）乃至第六項（官吏教導職試補戶長等）第八項（諸學校教員）ニ當ル者並ニ第廿九條（平時ニ於テ兵役ヲ免ス）第一項（年齡五十歲未滿ノ者ノ嗣子或ハ承祖）第二項（陸海軍生徒幷海軍兵器局）第四項（醫術開業免狀ヲ）第九項（海員試驗及ヒ造船所定雇職工等）ノ系

免狀規則ニ遵ヒ船長運轉手及機關手ノ免狀ヲ所持スル者（第三十一條官省院使府縣準官吏御用掛御雇等餘人ヲ以テ代フ可カラザル者ニ當ル者常備年期ノ第三年檢查時限ニ至ル迄ニ其名稱ヲ罷メタル者ハ更ニ徵集ニ應セシムルモノトス

第三十三條　第廿八條（國民軍ノ外兵役ヲ免ス）第四項（年齡五十歲以上ニシテ嗣子ナキ者ノ養子（嗣子）或ハ相續人）學校教導職試補戶長等（第八項諸學校教員）第廿九條（平時ニ於テ兵役ヲ免ス）第四項（醫術開業免狀ヲ所持スル者）乃至第十項（海員雇入雇止規則ニ遵ヒ三年以上海上ニ在テ水火夫ノ業ヲ執リタルコトヲ證明スル者及ヒ第三十條（平時ニ於テ一ケ年ヲ限リ徵集猶豫ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒（第七項公立中學校及ヒ公立專門學校ニ於テ修業一ケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒）ニ當ル者ハ徵兵適齡ニ屆出ノ者ニ示シタル徵兵各自屆出期限ヲ過キモノト雖モ第六十一條（徵兵適齡ニ屆出ノ者ハ免役又ハ猶豫ノ限ニアラス）即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ免役又ハ猶豫ノ限ニアラス

第三十四條　第三十條（平時ニ於テ一ケ年間ヲ限リ徵集猶豫スヘキ者及ヒ第四十一條（檢查呼出ノ節病氣ニ罹ル者）第四十二條（檢查呼出ノ節父母ノ喪ニ罹ル者）第五十六條（病疾或ハ犯罪等ニテ入營シ難キ者）ハ但書ニ當リ翌年廻シニスヘキ者次

年ニ至リ猶該條ニ當ルトキハ又之ヲ猶豫若クハ翌年廻シニスヘシ而シテ終ニ常備年期ノ第三年檢查時限ニ至リ猶該條ニ當ルトキハ平時ニ於テ之ヲ免役スヘシ

第三十五條　備年期間第廿八條（國民軍ノ外兵役ヲ免ス）第一項（戶主乃至第六項官吏教導職試補戶長等）第八項（諸學校教員）並ニ第二十九條（平時ニ於テ兵役ヲ免ス）第一項（年齡五十歲未滿ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫）第二項（陸海軍ノ生徒幷ニ海軍造船所定雇職工）第四項（醫術開業免狀ヲ所持スル者）第九項（海員試驗免狀規則ニ遵ヒ船長運轉手及ヒ機關手ノ免狀ヲ所持スル者）第三十條（平時ニ於テ一ケ年ヲ限リ徵集猶豫第三十一條（官省院使府縣準官吏御用掛御雇等）第四十一條（檢查呼出ノ節父母ノ喪ニ罹ル者）第五十六條（疾病或ハ犯罪等ニテ入營シ難キ者）ノ但書ニ交互該當スル者ハ第三十四條（常備年期ノ第三年檢查時限ニ至リ猶該條ノ例ニ準ス）ハ平時ニ於テ之ヲ免役スヘシ

但第三年ノ檢查時限ニ於テ第廿八條（國民軍ノ外兵役ヲ免ス）第一項（戶主乃至第六項官吏教導職試補戶長等）第八項（諸學校教員）ニ該ル者ハ國民軍ノ外軍役ヲ免ス

第三十六條　平時免役ニ屬シ第四十九條（抽籤法）及ヒ第五十一條（常備兵ノ召集期限初日四月廿日ヨリ滿一ケ年ニ至リ終ニ入營ヲ命セザルモノ）但書ニ當ル者ハ平時ニ於テ免役ス（第三十四條（常備年期ノ第三年檢査時限ニ至リ猶該）ニ當ル時ハ平時ニ於テ免役スヘシ）第三十九條（平時ニ於テ兵役ヲ免ス）

故アル時ニ當リ後備軍ヲ召集シ尚兵員ヲ要スル時ハ其順序ニ從ヒ臨時召集シテ隊伍ニ編制シ或ハ輜重運輸ノ役ニ供スルコアルヘシ

○東京府伺同十二年十一月

徴兵令第廿八條項目中第一項第二項及第四項但書幷第廿九條第一項但書ニ當ル者ハ本年四十六號（則徴兵令）公布則十月廿七日以前已ニ戸主トナリ或ハ五十歳以上ノ者ノ嗣子トナリタル者等ハ國民軍ノ外兵役免除或ハ平時ニ於テ兵役免除ニ相成候旨御省達甲第廿二號ヲ以テ御達相成候處五十歳未滿ノ者養子嗣子獨孫承祖ノ孫及等外吏ノ如キハ明文無之徴集スヘキハ勿論ノ儀ト相考候得共舊令ニ於テハ免役相成候者ニ付爲念相伺候條至急何分ノ御指揮有之度候也

○陸軍省指令

伺之趣本年十月廿六日已前已ニ五十歳未滿ノ者ノ養嗣子トナリ亦ハ等外吏ニ拜命後勤續ノ者ハ本年當省達甲第二十二號（本章第九欵ニ出ツ）達第一項ニ準シ取扱フヘキ事

○新潟縣伺同十二年十一月

徴兵令第廿八條第三項及ヒ第廿九條第一項ニ示サレタル嗣子或ハ承祖ノ孫ハ都テ實子實孫ノ其位置ニアリト雖ヒ此限ニ非スト相心得可然哉此段相伺

○陸軍省指令

伺之通

○岐阜縣伺同十三年二月

第一條　本令第廿八條第一項但書ニ當ル者ハ縱令女戸主隱居シ養子

或ハ相續人ニシテ其跡ヲ請ケタル女戸主ト雖モ同樣取調可然哉

但本文ノ通ニ候ハヽ、女戸主ハ總テ男戸主ト區別無之モノニ候哉

（以下各條略ス）

○陸軍省指令

第一條　伺之通

○大分縣伺同十三年三月

第一項　官立公立學校生徒入學中徵兵適當ノ者徵集ノ儀徵兵令第三十條中ヘ明文無之候處本縣師範學科生徒ノ外豫備科ヲ設ケ師範學校豫備門ト唱ヘ學期ヲ三ケ年トシ本科ヘ操込候儀ニ付右生徒ニシテ徵兵適當ノ者ハ徵兵令第三十條徵集猶豫相成候儀ト被考候果シテ然ル時ハ第三十條第六項師範學校生徒ト見做スヘキ歟又ハ同條第七項公立中學校生徒ト見做シ可然哉

第二項　豫備門生徒ニシテ師範學科ヲ履ス單ニ豫備科ノミ修業三ケ

年ノ學期本縣ノヲ所定卒業スルモノハ徵兵令第二十九第六項公立中學校卒業生徒同樣平時ニ於テ兵役ヲ免スノ部ニ操込可然哉

○陸軍省指令

第一項第二項　豫備門生徒ニシテ其學科ヲ卒ヘサル者ハ勿論既ニ卒業ノ者ト雖モ免役又ハ徵集猶豫ノ限ニアラス

○石川縣伺同十三年二月

第二條　現今海軍水兵ニ服役ノ者ハ免役名簿中登記スル適條ナシ之ニ依テ徵兵令第二十九條第二項陸海軍生徒云々ノ條中ヘ組込登記スヘキ哉

第三條　徵兵令第三十條第一項海軍兵員云々トアルハ海軍省等ニ於テ水兵等徵募ノ布達アル當時ニ限ルヤ將タ其儀ナキ場合ト雖モ志願スルニ於テハ先ツ猶豫スヘキ哉（省錄）

○陸軍省指令

第二條　第二豫備徵兵名簿ヘ記載スヘシ

第三條　海軍省ノ布達ニ由リ已ニ願書ヲ上呈セシ者ニ限ル

第五款　徵兵檢查

○太政官第四十六號布告　明治十二年十月廿七日

別冊徵兵令ノ內

第五章　徵兵檢查

第三十七條　徵兵檢查定日ハ前以テ徵兵使ヨリ使府縣ヘ通報シ日割ヲ以テ一日幾人ト定メ戶長之ヲ引纏メ出ヘシ

第三十八條　徵兵檢查ノ時節ニ至ソハ使府縣廳ヨリ左式ノ罫紙ヲ戶長ニ渡シ戶長ハ檢查ヲ受クヘキ者ノ戶籍ニ基キ朱書ニ示シタル如ク本人姓名產國住所誕生ノ年月日及ヒ戶主タル者ノ名並ニ氏神宗門其他戶籍ノ父母祖父母兄弟妻子等ヲ記載シ之ヲ人別表トシ徵兵檢查ノ時差出スヘシ

人別表

明治　年徴兵人別表														
使府(縣)國郡(區)町(村)產族及ヒ職業	身幹尺度	兵種番號	族職業		歲	姓名	誕生	年　月　日	神氏	國郡(區)町(村)何神社	宗門	同何宗何寺	備考	
戶主名何男(兄)(弟)(伯)(叔)甥(附籍)														
父			某	同		何某	同年何ケ月		同		同			
母			同	同			同		同		同			
祖父			同	同			同		同		同			
祖母			同	同			同		同		同			
兄弟			同	同			同		同		同			
姉妹			同	同			同		同		同			
妻子			同	同			同		同		同			

產國ト現今ノ管轄使府縣ノ異ナル者ハ表首國郡區町村產ト記スルノ上ニ其產國ノ使府縣ヲ加ヘ若シ又寄留地ノ徵集ニ應スル者ハ國郡區町村住ト記スルノ代リニ其寄留地使府縣及ヒ何郡區町村寄留ト書スヘシ族職業ノ區書ニハ華士族何(平民何)ト記ス

但女ハ戶主ニ非サレハ族職業ヲ記スルニ及ハス

父母亡スル者ハ名ノ下ニ亡ト記シ年ノ區書ニハ〇ヲ記スヘシ祖父亡スル者亦之ニ同シ

身幹尺度ノ區書ニハ撿查ノ後徵兵署ニ於テ其身幹尺度ヲ記註スヘシ

兵種番號ノ區書ニハ抽籤ノ後徵兵署ニ於テ其兵種番號ヲ記註スヘシ

備考ノ區書ニハ徵兵署及ヒ後備軍本部ニ於テ須要ノ件々ヲ記註スヘシ

第三十九條　徵兵ノ身體撿查ヲ爲ス時ハ徵集名簿ノ順序ニ從ヒ之ヲ呼出シ陸軍醫官撿查規則ニ照シ徵兵醫官之ヲ撿查シ地方徵兵醫員ヲシ

テ體格體質等ヲ左式ノ檢查表ニ記註セシム

檢查表

明治　年徵兵檢查表

使(府)(縣)	國郡(區)町(村)產 國郡(區)町(村)住	族及ヒ職業								
	戶主名何男(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍)									
身幹尺度		姓名	何某	體質	顏	鼻	髮	骨相	別徵	地方醫員審查
兵種番號					額	口	眉			
軍醫審查					眼	顋	痘			
體格										
體質										

第四十條　檢查ヲ爲ス時ハ徵兵副使々府縣徵兵事務官及ヒ郡區徵兵事務官列座スヘシ

第四十一條　檢查呼出ノ時病氣ニテ出頭シ難キ者ハ最寄地方醫師ノ診斷書ヲ添ヘ戶長之ニ證印シ郡區長ヲ經テ檢查所ヘ願出ルヲハ時宜ニ由リ他ノ檢查所ニ出頭セシメ又ハ其家ニ就キ之ヲ檢查シ或ハ翌年ノ檢查ニ廻スヘシ

第四十二條　檢查呼出シノ時父母ノ喪ニ罹リ未タ三週間ヲ過キサル者或ハ父母ノ重病又ハ一家ノ安危ニ係リ一時已ムヲ得サル事故アル者其事實ヲ詳記シ戶長之ニ證印シ郡區長ヲ經テ檢查所ヘ願出ル時ハ前條ニ準シ之ヲ處分スヘシ

第四十三條　徵兵署ニ隔リタル郡區ハ徵兵副使徵兵副醫官及ヒ使府縣徵兵事務官一行ヲ十ナリ組ヲ分ヲ巡廻セシメ相應ノ場所ニ於テ徵兵檢查所ヲ設ケ其式本署ニ異ナルコトナシ

○陸軍省甲第五號鎮臺府縣達同十三年二月五日

徴兵身幹五尺未滿ニシテ輜重輸卒看病及ヒ職工ニ適當ノ者ヲ除之外ハ徴兵下檢查所ニ於テ翌年回可取計筈ニ候處輜重輸卒ハ本年始テ徴集致候儀ニ付該卒適當ノ者モ或ハ下檢查所ニ於テ翌年回取計候テハ不都合ニ候條身幹五尺未滿ニシテ昨十二年當省達中第廿一號達地方徴兵醫員職務概則第三條中第一號乃至第十四號ニ當ル者ヲ除ノ外ハ凡テ徴兵檢查所ヘ召集本檢查ヲ可爲受儀ト可心得此旨相達候事

○德嶋縣伺同十三年五月

茲ニ三四男アリ其三男明治十一年徴兵適齡ノ處戸籍洩ヲ以テ該年ハ屆落ト相成客年ニ至リ入籍許可濟ヲ以テ本年檢查相受候處四男ハ本年適齡致候トモ一ケ年徴集猶豫難相成儀ニ候哉此段相伺

○陸軍省指令

伺之趣三男徴集規避ト認メザル者ニシテ檢查合格ナルヰハ四男徴集ヲ猶豫スベキ儀ト可相心得候事

徴兵檢查

第六款　抽籤

○太政官四十六號布告　明治十二年十月廿七日

別冊徴兵令ノ内

第六章　抽籤

第四十四條　抽籤ハ徴兵ノ撿査終リタル後人別表及ヒ撿査表ヲ案シ兵役ニ適スヘキ人員ニ應シ徴員配當表ニ基キ兵種ヲ區別シ使府縣徴兵署ニ於テ常備抽籤ヲ行フヘシ

第四十五條　抽籤ハ各自ニ之ヲ行ハシムルヲ原則トス但シ已ムヲ得サル者ナリト雖モ各自ノ便宜ニ依リ一町村或ハ數町村又ハ一郡區内ノ人撰ヲ以テ一名乃至三名ヲ限リ徴兵各自ノ抽籤總代ト爲シ之ヲ抽カシムルモ妨ケナシ

第四十六條　常備缺員ヲ補フ爲メ補充兵トシテ一ケ年ヲ期トシ常備徴員ニ亞キ之ヲ徴集スル者トス

第四十七條　抽籤施行ニ先タチ該使府縣籤丁ノ總員及ヒ各兵種常備補充ノ徴員ヲ記載シ之ヲ抽籤所ニ掲示スヘシ

第四十八條　抽籤ノ法ハ籤丁ヲ調ヘ其人員ニ應シ左式ノ籤札ニ番號ヲ記シ籤箱ニ納レ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其姓名ヲ呼ヒ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ舉クル所ノ番號ヲ高聲ニ呼ハシメ其籤札ヲ受取リ籤簿ニ姓名番號ヲ記シ籤札ハ本人ニ返付ス

兵種
第何番

籤札ハ厚紙ヲ凡ソ方三寸ニ切リ之ヲ四ツ折ニシテ中分ヲ拈ル

第四十九條　抽籤ノ法例ヘハ籤丁五百人ナルトキハ第壹番ヨリ五百番迄ノ籤ヲ納レ本年常備徴員貳百人補充徴員一百人ナレハ第壹番ヨリ第二百番迄ノ籤ヲ抽キシ者ヲ常備トシ第二百壹番ヨリ第三百番迄ノ籤ヲ抽キシ者ヲ補充トシ其餘ヲ以テ落籤トス

但落籤ニ當ル者ハ平時ニ於テ兵役ヲ免ス

第五十條　抽籤全ク終ルノ後籤簿及ヒ人別表ニ依リ左ノ番號割符ヲ作リ籤簿ニ引合セ割印ヲ爲シ本人ヲ呼出シ籤札ヲ出サシメ相違ナキ者ヘハ籤札ト番號割符ト引替渡スヘシ

番號割符

明	陸軍徴兵署		
治 年 月 日			
何 鎮 臺			
使(府縣)國郡(區)町(村)住族及ヒ職業	兵種番號	常備軍(補充兵)編入	
戸主名何某男(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍)			
何某			

第五十一條　補充兵ヲ命セラレタル者ハ常ニ家居シテ産業ヲ營マシメ

徴兵檢査

豫備軍ニ編入スル者ハ番號割符ノ裏面ニ

第管軍之
何後本
師備部
印

年　月　日　豫備軍編入候事

後備軍ニ編入スル者ハ

第管軍之
何後本
師備部
印

年　月　日　後備軍編入候事

近衛兵ニ編入スル者ハ

第管軍之
何後本
師備部
印

年　月　日　近衛兵編入候事

補充兵ヨリ常備軍ニ編入スル者ハ

第管軍之
何後本
師備部
印

年　月　日　常備軍編入候事

常備缺員ノ節ハ其鎮臺ヨリ籤順ニ布達シ入營セシムヘシ

但本年常備兵入營期限初日即チ四月廿日ヨリ起算シ滿一ケ年ニ至リ終ニ入營ヲ命セザル者ハ平時ニ於テ之ヲ免役スヘシ

第五十二條　補充兵ヨリ常備軍ニ編入セシ者ハ本人入營ノ月日ニ拘ハラス總テ本年ノ常備兵入營期限初日ヨリ起算シ三ケ年ノ期ヲ保タシムヘシ

第五十三條　徵兵使ハ使府縣ニ於テ徵兵事務全ク竣ルノ後徵兵各自ノ人別表及ヒ撿查表ヲ點撿シ兵種毎ニ常備補充ヲ區別シ人別表ハ兵卒明細名簿ト題シ撿查表ハ兵卒撿查名簿ト題シ籤簿ト共ニ陸軍省並鎮台ヘ差出スヘシ

第五十四條　徵集名簿並ニ免役名簿其他種々ノ願書及ヒ屆書郡區長戶長ノ取調證書總テ徵兵ニ關スル書類ハ使府縣毎ニ取纏メ前條諸名簿ト共ニ陸軍省幷ニ鎮台ヘ差出スヘシ

第七款　徵兵雜則

○太政官第四十六號布告　明治十二年十月廿七日

別冊徵兵令ノ內

第七章　徵兵雜則

第五十五條　常備籤ヲ抽キタル徵兵ハ四月廿日ヨリ五月一日迄ニ入營スヘシ其營所迄ハ使府縣毎ニ最寄ヲ分ケ戶長之ヲ引率メ出ヘシ

但入營迄ノ費用ハ總テ定則ニ照準シ大藏省ヨリ支給スヘシ

第五十六條　疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事實ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ最寄地方醫師ノ診斷書ヲ添ヘ郡區長ノ奧書證印ヲ以テ速ニ其鎮臺或ハ營所ヘ屆出ヘシ

但其年十月一日ニ至ルモ事故猶止マザル者ハ之ヲ入營延期翌年廻シノ者ト爲シ翌年徵募ノ期ニ於テ更ニ撿查ヲ遂ケ尋常ノ徵兵ニ先ダチ入營セシムヘシ

第五十七條　常備軍服役在營中身元轉居スルトキハ其親族ノ者ヨリ直ニ本人ニ通報シ本人ヨリ自己所屬ノ下士ヘ届出ベシ

第五十八條　常備軍在營中病氣ノ者ハ軍醫ノ診斷ヲ以テ病院ニ入レ治療セシメ其上ニテ兵役ニ堪ヘ難キ者ハ兵籍ヲ除スベシ尤歸鄉迄ノ旅費ハ定則ニ照準シ陸軍省ヨリ支給スベシ

第五十九條　常備軍在營中父母ノ重病或ハ非常ノ事故アル者一時已ムヲ得ズシテ歸省ヲ願フトキハ其親族ノ者ヨリ郡區長ノ奥書証印ヲ以テ鎭臺或ハ營所ヘ願出ルニ於テハ詮議ノ上往復ヲ除クノ外二週日以内ノ歸省ヲ許ス尤旅費ハ自辨タルベシ

但入營後六ケ月未滿ニシテ成業ニ至ラズ或ハ實地演習又ハ臨時觀兵等ノ擧アルトキハ本條ノ限ニ非ス

第六十條　全國ノ男子齡十七歳ニ至レバ國民軍籍ニ入ルベキヲ以テ每年一月ヨリ十二月迄ニ十七歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十

五日迄ニ其戸主本人戸主ナレヨリ本人ノ姓名族籍住所ノ誕生ノ年月日及ヒ職業ヲ記載シテ戸長ヘ届出ベシ戸長之ヲ取調同月廿五日迄ニ郡區長ヘ差出シ郡區長點檢ノ上十月十日迄ニ使府縣ヘ差出シ國民軍名簿ニ載セ置クベシ

但他府縣ヘ寄留スル者ハ本籍ノ戸長ヘ届出テ寄留地ノ戸長ヘハ届出ルニ及ハス

第六十一條　男子二十歳ニ至レハ兵役ニ就クベキヲ以テ每年一月ヨリ十二月迄ニ二十歳トナル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ左式ノ如ク其戸主本人戸主ナレヨリ戸長ヘ届出ヘシ戸長之ヲ取纏メ同月二十五日迄ニ郡區長ヘ差出シ郡區長點檢ノ上箇條ヲ區別シ十月十日迄ニ各自ノ届出ト共ニ使府縣廳ヘ差出スヘシ使府縣廳之ヲ調査シ徵兵諸名簿ニ載セ十二月二十五日迄ニ所管鎭臺ヘ出スベシ

徴兵免自届式

除役免役及ヒ一時徴集猶豫ニ當ルヘキ事故アル者ハ其旨ヲ此ニ記載スル例ヘハ

職業

嗣子(承祖孫)(相續人)　年月日生　何　某

右私何男弟孫甥又ハ附籍等ニテ本年何月二十歳ト相成候間此段御届候也

年月日

郡(區)町(村)住族及ヒ職業

戸主　何　某　印

年月日生

郡(區)町(村)戸長

何　某　殿

第六十二條　他ノ使府縣ヘ寄留スル者ハ其本籍府縣ニ於テ徴集ニ應スルト其寄留地ニ於テスルトハ總テ本人ノ情願ニ任ス

第六十三條　寄留地ニ於テ徴集ニ就ント欲スル者ハ寄留地ニ於ケル身元引受人ノ証書ヲ添ヘ九月一日迄ニ其旨ヲ本管廳並ニ寄留管廳ニ届出ヘシ其本管廳ニ於テハ其地ノ戸主タル者ヲ取糺ノ上寄留管廳ヘ其旨ヲ通牒シ徴集名簿ノ末ニ附シ其事由ヲ詳記スヘシ

第六十四條　本年徴兵ニ當ル者免役料金貳百七十圓平時免役ニ當ル者金百三十五圓ヲ上納スルトキハ國民軍ノ外兵役ヲ免ス

第六十五條　前條ノ免役ヲ願出ル者ハ其親族ノ者ヨリ徴兵使巡行徴兵撿査以前願書ヲ戸長ヘ差出シ戸長之ニ奥書証印ヲ爲シ郡區長ヘ差出

シ郡區長點檢ノ上使府縣廳ヘ差出シ使府縣廳ヨリ之ヲ徵兵署ニ差出スベシ

第六十六條　徵兵ニ關スル事件ニ付キ年齡及ヒ父母兄弟ノ有無ヲ僞リ或ハ身体ヲ毀傷シ或ハ疾病ヲ作爲シ其他詐欺ヲ以テ徵集ヲ規避スル者並ニ郡區長或ハ戶長ノ之ニ証印ヲ爲セシ者ハ共ニ常律ヲ以テ之ヲ處分ス

第六十七條　前條ニ揭ル所ノ徵集ヲ規避スル者及ヒ第六十一條ニ示ス所ノ定規ノ屆出ヲ怠ル者ハ翌年徵集ノ期ニ於テ檢查ヲ遂ケ第五十六條但書ニ示シタル入營延期翌年廻ノ者ニ先ダチ入營セシムベシ

○長崎縣伺同十二年十一月

譬ヘハ甲村本籍ノ戶主其二三男或ハ弟ヲ本人營業ノ都合ニ依リ乙村ヘ別居爲致甲村ヨリ乙村ヘ送籍候者ニテ徵兵適齡ノ節ハ乙村ニ於テ召募可相成哉將タ甲村戶主ノ籍ニ於テ召募可相成哉決兼候ニ付此段

相伺

○陸軍省指令

伺ノ趣甲村則チ戶主在籍ノ地ニ於テ徵募候儀ト可相心得事

○埼玉縣伺同十三年二月

改正徵兵令第七章第五十五條常備籤ヲ抽キタル徵兵ハ四月廿日ヨリ五月一日迄ニ入營スベシ其營所迄ハ使府縣毎ニ最寄ヲ分チ戶長之ヲ引率メ出ヘシトアリ右附添人ノ儀ハ便宜ニ依リ郡書記ヲ以テ換用候トモ不苦哉若シ然ラハ旅費ノ儀ハ定則ニ照準支給シ徵兵入費組込可然哉御指令相仰候也

○陸軍省指令

伺之趣徵兵入營附添人ノ儀ハ郡區書記ヲ以テ換用スルモ不苦右旅費ハ昨十二年大藏省乙第四十八號（第十款ニ出ツ）達第一條之通可心得事

○東京府伺同十三年三月

徴兵令第六十一條各自届出期限即チ九月十六日本年徴兵ハ昨十二年十二月廿七日以後兄死去セルヲ以テ弟嗣子トナリ又ハ癈疾不具ニシテ產業ヲ營ム能ハザルモノヽ養子嗣子トナルノ類本令第三十三條ニ明記無之分ハ都テ其變換シタル名稱ニ依リ免役又ハ猶豫等ニ照シ處分スルハ勿論ノ儀ト存候得共爲念此段相伺

○陸軍省指令

伺之趣各自届出後名簿調製已前ニ係ル者ハ徴兵支署ニ於テ之ヲ處分シ已ニ名簿整頓ノ後免役又ハ猶豫ニ係ル者ハ其府徴兵署ニ於テ處分スベキ儀ト可心得事

○橡木縣伺同十三年三月

國民軍名簿ノ儀ハ地所番號記載可致書式ニ候處徴兵令第六十條國民軍籍ニ入ルモノ届出方ノ番地無之國民軍名簿編製方差閊候得共右ハ番地記載ニ不及候哉此段相伺

○陸軍省指令

伺之趣各自番地ヲ記載爲届出式ノ如ク簿ヘ記載可致事

○新潟縣伺同十三年三月

徴兵令第二十九條項目ニ當ル者免役料徴收ハ第二豫備徴兵召集ノ節合格ノ者ノミ收入スベキ旨本年千葉縣伺ヘ御指令ノ趣有之候處適齡本年右免役料上納國民軍ノ外兵役ヲ被免度出願ノ者有之候節ハ情願ニ任セ撿查合格ノ者ノミ收入可然哉此段相伺

○陸軍省指令

伺之趣平時免役相當適齡ノ節免役料上納出願ハ難聞届儀ト可心得事

第八款　徴員

○太政官第四十六號布告　明治十二年十月廿七日

別冊徴兵令ノ内

第八章　徴員

第六十八條　凡ソ六管鎮臺下ニ於テ各種ノ兵員ヲ分ツ其徴員ヲ定ムルヿ左ノ如シ

○第一軍管東京鎮臺常備

歩兵	三聯隊	
砲兵	二大隊	
輜重兵	一小隊	
騎兵	一大隊	
工兵	一大隊	
海岸砲兵	三隊	

人員七千〇二十八

内一ヶ年徴員二千三百四十八

管下府縣

東京	神奈川	埼玉	靜岡
山梨	群馬	千葉	茨木
櫪木	長野	新潟	

○第二軍管仙臺鎮臺常備

歩兵	二聯隊	
工兵	一中隊	
砲兵	一大隊	
輜重兵	一小隊	

人員四千二百六十八

内一ヶ年徴員一千四百二十八

管下諸縣

宮城	福嶋	青森	岩手
秋田	山形		

○第三軍管名古屋鎮臺常備

歩兵	二聯隊	
砲兵	一大隊	

工兵　一中隊
八員四千二百六十八
內一ヶ年徵員一千四百二十八
管下諸縣
愛知　岐阜　石川　靜岡ノ內　輜重兵　一小隊
滋賀ノ內　長野ノ內　信濃四郡　遠江一圓
越前一郡
○第四軍管大坂鎭臺常備
步兵　三聯隊　砲兵　二大隊
工兵　一大隊　輜重兵　一小隊
海岸砲兵　二隊
八員六千七百八
內一ヶ年徵員二千二百三十三八三分ノ三
管下府縣

大坂　兵庫　堺　和歌山
京都　滋賀　三重　岡山
島根ノ內因幡伯耆隱岐一圓
○第五軍管廣嶋鎭臺常備
步兵　二聯隊　砲兵　一大隊
工兵　一中隊　輜重　一小隊
海岸砲　一隊
八員四千三百四十八
內一ヶ年徵員一千四百四十六八三分二
管下諸縣
廣嶋　島根　山口　高知
愛媛　岡山ノ內備中一圓
○第六軍管熊本鎭臺常備

歩兵　二聯隊　砲兵　二大隊
工兵　一大隊　輜重兵　一小隊
海岸砲　二隊

人員四千七百八十八
内一ヶ年徴員一千五百九十三人三分ノ一

管下諸縣
熊本　鹿兒嶋　大分　福岡
長崎　沖繩

○第七軍管
海岸砲　二隊　現今第二軍管ノ管轄ニ屬スル者

人員八十八
内一ヶ年徴員二十六人三分二

管下

開拓使ノ内函館支廳管下一圓

總計
人員三万千四百四十八
内一ヶ年徴員一万〇四百八十八
輜重輸卒看病卒及ヒ職工ハ未タ其徴員ヲ定メス故ニ之ヲ茲ニ算入セス

第六十九條　補充兵員ハ諸兵總テ常備兵員ニ同シ

第七十條　各種ノ兵卒其身幹ノ尺度ヲ定ムルヿ左ノ如シ

砲兵
海岸砲兵　五尺四寸以上
騎兵
工兵　五尺三寸以上
輜重兵
歩兵　五尺以上
輜重輸卒
看病卒
職工　尺度ヲ定メス

第七十一條　常備補充一ヶ年徴兵ハ其大要ニ示ス者ニシテ軍隊編制ノ都合ニ由リ若干ノ人員ヲ増減スルハ時宜ニ由ルヘシ

○陸軍省布第一號布達同十三年一月廿二日

本年各軍管徴兵ノ儀別表記載ノ人員徴集致候條此旨布達候事

明治十三年徴集人員表

軍管	常備 歩兵	常備 騎兵	常備 砲兵	常備 工兵	備
第一	二千〇八	百〇七	二百〇三	八十一	
第二	八百七十	○	五十	○	
第三	千三百六十一	○	五十二	○	
第四	二千〇五十九	○	百九十九	九十九	
第五	千三百六十一	○	五十三	○	
第六	千四百十一	○	百九十九	九十	
第七軍管之内函館	○	○	二十五	○	
計	九千〇七十四	百〇七	七百八十一	二百七十	

軍 計	軍 輜重輸卒	軍 輜重兵	補充 歩兵	補充 騎兵	補充 砲兵	補充 工兵	補充 輜重兵
四千九百四十三	二千五百	四十四	千八百十六	五十七	百八十四	六十四	四十五
三千四百四十	二千五百	二十	七百四十三	○	四十	○	二十
三千九百三十三	二千五百	二十	千二百三十三	○	四十二	○	二十
四千八百七十五	二千五百	十八	千八百六十七	○	百八十	八十二	十八
三千九百三十八	二千五百	二十	千二百三十三	○	四十四	○	二十
四千二百二十	二千五百	二十	千二百八十三	○	百八十	七十四	二十
二十五	○	○	○	○	二十五	○	○
二萬五千三百七十四	一萬五千	百四十二	八千百七十九	五十七	六百九十五	二百二十	百四十二

兵								
輜重輸卒	二千五百	二千五百	二千五百	二千五百	二千五百	二千五百	〇	一萬五千
計	四千六百六十五	三千三百〇三	三千七百九十五	四千六百四十七	三千八百〇一	四千〇五十七	二十五	二萬四千二百九十三

備考

第二第三及ヒ第五軍管ノ輜重兵並ニ各軍管ノ輜重輸卒ハ本年ヨリ始メテ徵集スル者ナリ

常備歩騎砲工兵人員中ニハ近衛兵ニ撰拔スヘキ人員ヲ算入スルモノナリ

○石川縣伺 同十三年二月

輜重輸卒尺度ヲ定メストアリ其短尺ニ於テ制限ナキ哉

○陸軍省指令

短尺ニ於テ制限ナシ

第九款 改正徵兵取扱條例

○陸軍省甲第廿二號 鎭臺府縣 達 明治十二年十一月十七日

今般第四十六號布告徵兵令改正ニ付取扱方別紙ノ通相心得調査致候樣可取計此旨相達候事

別紙 徵兵令改正取扱方

第一項 徵兵令第廿八條（國民軍ノ外兵役ヲ免ス）項目中第一項（戸主）第三項（年齡五十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫）及ヒ第四項但書（隱居後別家シテ特ニ定メタル嗣子或ハ相續人ハ此限ニ非ス）竝ニ第廿九條（平時ニ於テ兵役ヲ免ス）第一項但書（徵兵年齡以後ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ヲ分家シ或ハ五十歳未滿ノ者ノ養子「本家ノ故ヲ以テ已ムヲ得サル者ヲ除ク」トシ又ハ絶家ヲ再興シ或ハ新タニ分家シタル女戸主ニ入婿シ其他ノ子孫ヲ以テ徵兵年齡以前ニ更ニ定メタル嗣子或ハ承祖ノ孫ハ此限ニ非ス）ニ當ル者ハ徵兵令改正布告即チ本年十月二十七日ヲ以テ區分トナシ同廿六日以前已ニ戸主トナリ或ハ年齡五十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫又ハ五十歳以上ニシテ嗣子ナキ者ノ養嗣子或ハ相續人トナリ又ハ年齡五十歳未滿ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫トナリタル

者ハ國民軍ノ外兵役ヲ免シ或ハ平時ニ於テ兵役ヲ免シ同廿〇七日以後ニ係ル者ハ總テ徴集ニ應セシムヘシ

但本文十月廿六日以前已ニ等外吏ニシテ爾後勤續ノ者或ハ嗣子ニ非サル獨子及承祖ノ孫ニ非サル獨子ハ國民軍ノ外兵役ヲ免シ又ハ年齡五十歳未滿ノ者ノ養子嗣子養孫承祖及ヒ相續人トナリタル者ハ平時ニ於テ兵役ヲ免ス（十三年二月六日陸軍省甲第六號ヲ以テ該但書ヲ追加シ且ツ本項中〇〇ヲ付スル廿六廿七ノ字ヲ同日ノ中間ニ之レヲ增補ス）

第二項　徴兵令第三十三條（第廿八條期限ヲ過キ九月十六日以後ニ係ル者ハ免役又ハ猶豫セス）ニ揭示ノ同令第二十八條（國民軍ノ外兵役ヲ免ス）第四項（年齡五十歳以上ニシテ嗣子ナキ者ノ養子嗣子或第六項（官吏判任以上及ヒ敕第八項公立學校教員及ヒ文部省所轄並ニ其他省使ニ屬スル官立學校及ヒ公立師範學校ニ於テ修業三ケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒）ハ相續人ニ屬スル官立第廿九條（平時ニ於テ兵役ヲ免ス）第四項（醫術開業免狀ヲ所持スル者）學校教員ニ雇止規則ニ遵ヒ三年以上海上ニ在テ水夫ノ業ヲ執リタルコトヲ證明スル者）及第三十條（平時ニ於テ一ケ年ヲ限リ徴集ヲ猶豫スル者）ニ於テ修業ヲ卒リタル者ハ徴兵令改正第七項（公立中學校及ヒ公立專門學校ニ於テ修業三ケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒）ニ當ル者ハ徴兵令改正布告本年十月廿七日ヲ以テ區分トシ同廿〇六日以後ニ係ル者ハ該項ニ據リ免役又ハ猶豫トシ同廿〇七日以後ニ係ル者ハ徴集ニ應セシムヘシ

（本項中〇〇印ヲ附セル廿六廿七ハ前註ニ同シク增補ス）

第三項　從來翌年廻徴兵ノ中明治九年以前ニ係ル者ハ徴兵令第三十四條ニ準シ徴兵支署ニ於テ處分シ同十年以後ニ係ル者ハ使府縣徴兵署ニ於テ處分スヘシ

但本文明治九年以前ニ係ル者トハ雖ヒ逃亡失踪其他徴集規避ノ嫌疑アル者ハ使府縣徴兵署ニ於テ處分スヘキ者トス

第四項　徴兵令第六十七條（期翌年廻ノ者ニ先タチ入營セシムヘシ）ノ定規ノ届出ヲ怠ル者ハ本年其届出ノ時限既ニ經過スルヲ以テ之ヲ同條ニ當テスシテ尋常ノ徴兵同樣取扱フヘシ（十三年二月陸軍省甲第六號ヲ以テ改正ス）（第三條及但書共悉皆之レヲ改正シ及定規ノ届出ヲ怠ル者ハ入營延ノ者ニ先タチ入營セシムヘシ）

第五項　本年國民軍籍ニ入ル者ハ文久二壬戌年二月ヨリ文久三癸亥年正月迄ニ出生ノ者ヲ相當トス此人員中文久二年二月ヨリ十二月迄ニ出生ノ者ハ昨十一年已ニ管轄廳ニ於テ調査濟ナルヲ以テ文久三年正月中出生ノ者ノミ本年之ヲ調査シ而シテ來十三年同軍籍ニ入ル者ハ文久三癸亥年二月ヨリ元治元甲子年正月迄ニ出生ノ者ヲ以テ相當トシ爾後年々此例ニ依リ調査スベシ

第六項　來十三年ノ徵兵ハ安政六己未年二月ヨリ萬延元庚申年正月迄ニ出生ノ者ヲ相當トス此人員中安政六年二月出生ノ者ハ已ニ本年ノ徵集ニ應セシヲ以テ同年三月ヨリ萬延元年正月迄ニ出生ノ者ヲ調査シ而シテ明治十四年ノ徵兵ハ萬延元庚申年二月ヨリ文久元辛酉年正月迄ニ出生ノ者ヲ以テ相當トシ爾後年々此例ニ依リ調査スベシ

第七項　來十三年徵兵相當ノ者ハ本年ニ限リ郡區長ニ於テ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ調査シ徵兵事務條例第廿二條（壯丁名簿書式）ニ示シタル壯丁名簿

ヲ成規ノ如ク調査シ來ル十二月廿日限リ使府縣徵兵支署ヘ差出スベシ

但徵兵事務條例第十二條（癈疾不具等ノ者ハ醫師ノ診斷書處刑ノ者ハ宜告書寫ヲ屆書ニ添ヘ戶長ヘ差出タルヘシ）乃至第十五條（學校卒業證書ノ寫及ヒ癈疾不具等ノ者醫師診斷書及ヒ徵兵ノ戶主タル者二人以上保證書ヲ添ヘ戶長ヘ差出スベシ）ニ示シタル諸書類ハ成ルベク取揃本文名簿送達同時ニ徵兵支署ヘ差出スベシ

第八項　徵兵支署開設ノ時限ハ本年ニ限リ其使府縣ノ適宜ヲ以テ之ヲ定メ成規ノ如ク調査スベシ

但成規ノ如ク調査シ難キ事件ハ其由ヲ詳記シ第九項ニ示シタル徵兵諸名簿送達同時ニ使府縣廳ヨリ所管鎭臺ヘ差出スベシ

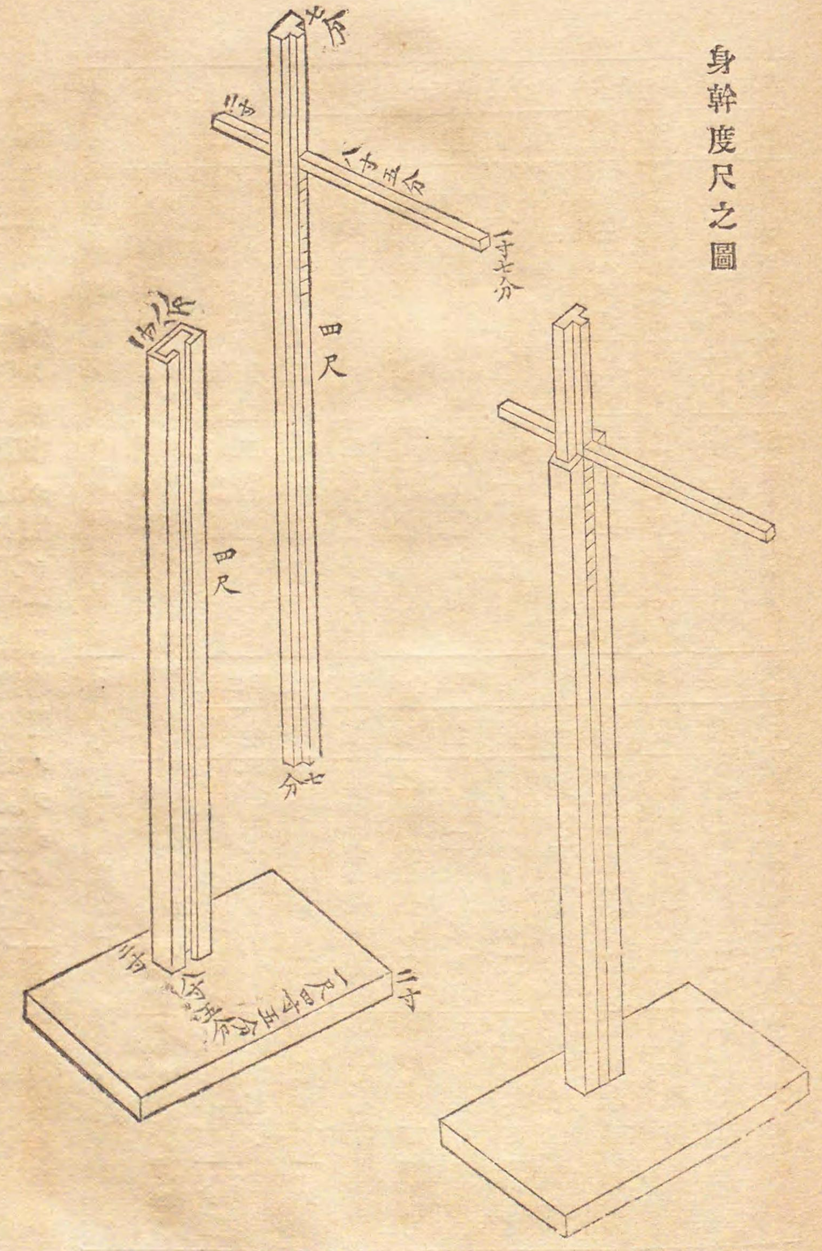
第九項　徵兵令第六十一條（徵兵令自屆書ノ）ノ徵兵名簿ハ本年ニ限リ來十三年一月三十日迄ニ使府縣廳ヨリ所管鎭臺ヘ差出スベシ

第十項　徵兵令第三十八條ノ人別表及ヒ同令第三十九條ノ檢查表ハ使

府縣廳ニ於テ別紙雛形ノ如ク美濃紙半葉ニ之ナ調製スヘシ又別紙圖面ノ身幹度尺ナ製造シ各檢查所ニ備ヘ置クヘシ

〔編者曰別紙入別表及檢查表雛形ハ徵兵令第五章中ノ圖式ト同シケレハ略シテ之レナ載セス〕

身幹度尺之圖



〔編者曰徴兵及國民軍每年適齢者取調方便ノ爲メ左表ヲ製シ一目瞭然タラシム〕

每年徴兵適齢年月表

年號	年	月	該年一月ニ至リ
明治十三年	自	安政六巳未年	三月 二十年十一ケ月
	至	萬延元庚申年	正月 二十年一ケ月
公十四年	自	萬延元庚申年	二月 滿二十一年
	至	文久元辛酉年	正月 二十年一ケ月
公十五年	自	文久元辛酉年	二月 滿二十一年
	至	同 二壬戌年	正月 二十年一ケ月
公十六年	自	文久二壬戌年	二月 滿二十一年
	至	同 三癸亥年	正月 二十年一ケ月
公十七年	自	文久三癸亥年	二月 滿二十一年
	至	元治元甲子年	正月 二十年一ケ月
公十八年	自	元治元甲子年	二月 滿二十一年
	至	慶應元乙丑年	正月 二十年一ケ月

每年國民軍適齢年月表

年號	年	月	該年十二月ニ至リ
明治十三年	自	文久三癸亥年	二月 十七年十一ケ月
	至	元治元甲子年	正月 滿十七年
公十四年	自	元治元甲子年	二月 十七年十一ケ月
	至	慶應元乙丑年	正月 滿十七年
公十五年	自	慶應元乙丑年	二月 十七年十一ケ月
	至	同 二丙寅年	正月 滿十七年
公十六年	自	慶應二丙寅年	二月 十七年十一ケ月
	至	同 三丁卯年	正月 滿十七年
公十七年	自	慶應三丁卯年	二月 十七年十一ケ月
	至	明治元戊辰年	正月 滿十七年
公十八年	自	明治元戊辰年	二月 十七年十一ケ月
	至	同 二己巳年	正月 滿十七年

年號	年	月	該年一月ニ至リ
公十九年	自	慶應元乙丑年	二月 滿二十一年
	至	同 二丙寅年	正月 二十年一ケ月
公二十年	自	慶應二丙寅年	二月 滿二十一年
	至	同 三丁卯年	正月 二十年一ケ月

年號	年	月	該年十二月ニ至リ
公十九年	自	明治二己巳年	二月 十七年十一ケ月
	至	同 三庚午年	正月 滿十七年
公二十年	自	明治三庚午年	二月 十七年十一ケ月
	至	同 四辛未年	正月 滿十七年

該表ハ陸軍省甲第二十二號達徴兵令改正ニ付取扱心得第五項及第六項ニヨリ之ヲ製ス尤十三年徴兵ハ安政六巳未年二月ヨリ萬延五庚申年正月迄ニ出生ノ者ヲ相當ス然レトモ安政六年二月出生ノ者ハ既ニ十二年ノ徴集ニ應セシヲ以テ同年三月ヨリ萬延元年正月迄出生ノ者ヲ揭載ス

編者識

第十欵　徴兵入費定則

○大藏省乙第四十八號府縣達明治十二年十二月廿八日

今般太政官第四十六號ヲ以テ徴兵令改正公布相成候ニ付テハ徴兵入費定則別冊ノ通相定候條改正徴兵令施行ノ日ヨリ右ニ照準可取計候尤受取方ノ儀ハ其季節前概算ヲ以テ申請候儀ト可相心得此旨相達候事

別冊

徴兵入費定則

第一條　入營ノ節徴兵ニ付添戸長或ハ郡區書記等ノ旅費ハ地方長官適宜決定ノ旅費ヲ以テ官費支給スベシ

但郡區徴兵事務官並徴兵ニ附添戸長檢查所及抽籤場等ヘ往復ノ旅費ハ官ヨリ之ヲ給セザルベシ

第二條　徴兵ハ各自居住ノ町村ヨリ檢查所及抽籤場等ヘ往復ノ旅費十里詰日當金二十四錢ヲ給シ若シ同地ニ滯在セシムルトキハ日當金二十二錢ヨリ多カラザル金額ヲ適宜支給スベシ

但下檢查所ヘ往復ノ旅費ハ官ヨリ之ヲ給セザルベシ

第三條　前條徴兵各自ノ旅費ハ近方片道三里未滿ハ之ヲ不給三里以上六里未滿ハ日當ノ半數六里以上十一里未滿ハ一日ノ日當ヲ給ス若シ一泊セシムルトキハ三里以上一日ノ日當十里以外ノ端里數ハ一里以上六里未滿ハ日當ノ半數六里以上ハ全數ヲ給スベシ總テ一里未滿ヲ給シ三里未滿ハ金十六錢ヲ給スベシ總テ一里未滿ハ刎捨ツベシ

第四條　檢查所ヨリ直ニ抽籤場ニ至ル徴兵ハ甲乙丙ノ里程ヲ通計シ第二條ノ旅費ヲ給スヘシ

第五條　抽籤又ハ檢查所等ニ於テ自己ノ情實ヲ申立テ免除ニ屬スル者ノ旅費幷ニ滯在日當ハ給セス

第六條　徴兵其府縣管外ニ在ル營所ヘ入營ノ旅費ハ十里詰日當金四拾

錢ヲ給スヘシ尤近方三里以上六里未滿幷ニ滯在日當及管內ノ營所ニ至ル旅費ハ第二條及第三條ニ準スヘシ

〔編者曰第七條ヨリ第十二條迄ハ府縣ノ事務ニ係ルヲ以略ス〕

第十三條　徵兵入營及撿查場抽籤場途中川留雪支病氣等ニテ延滯ノ節ハ其所戶長ノ証書及醫師ノ診斷書アルモノハ增日數ノ分滯留日當ヲ給スル且疾病足痛等ニテ步行難相成モノハ醫師ノ診斷書及其地通運會社ノ受取証書ヲ添テ申出ルトキハ車駕籠賃ヲ給スヘシ尤藥種料醫師ノ謝儀等ハ自辨タルヘシ

〔第十四條ヨリ第十六條迄及徵兵署備付品保存期限表等前註ニ同シク之レヲ畧ス〕

第六章　地所建物船舶質入書入並ニ賣買ニ奥書加印ノ事

第一款　地所質入書入規則

○內務省乙第三十九號府縣達明治十二年七月十四日

本年當省乙第二十二號〔社寺寶物古文書什器等取調ノ儀〕ヲ以テ社寺寶物古文書保護ノ儀相達候ニ就テハ今般調製スヘキ目錄帳中ヘ記載ノ物品ハ明治十年第四十三號公布ノ通抵當ト爲スヘカラザル筋ニ有之依テ自今社寺ニ於テ實物古文書ニアラザル分ニ限リ認可スヘシ此旨相達候事

但目錄帳ヘ記載セスト雖モ該社寺ニ別段ノ由緒アル地所建物等ハ寶物古文書ニ准スヘシ且社寺ノ物件不得已儀有之處分候節ハ明治六年第二百四十九號公布同九年教部省第三號〔社寺共持添ノ田地山林寄附金古文書等處分方ノ〕達書ノ通心得ヘシ

○宮內省華第廿二號華族達同十三年三月三日

華族ノ輩願届達ノ儀ニ付明治九年九月第八十六號公達以後土地賣買地券書換等ノ願ハ其管轄廳ヘ差出云々（以下畧ス）

○司法省丁第十三號　大審院諸裁判所　明治十三年七月七日

利息制限外ノ質入証書ニ戸長公証ノ件ニ付別紙ノ通法制部ヨリ通達有之候條爲心得此段相達候事

別紙

法制部ヨリ通達　明治十三年六月廿三日

利息制限外ノ質入証書ニ戸長公証ノ件ニ付舊法制局ヨリ及説明置候處今般閣裁ヲ經テ左ノ通熊本縣ニ及回答候條爲心得此段及通達候也

法制部ヨリ熊本縣ニ回答

戸長ハ地所家屋等ノ書入質入ヲ公証スルモノニシテ利息ノ制限ニ超エルト否トニ關セザルモノトス

第二款　建家書入質及賣買讓受規則

第三款　船舶賣買書入質規則

第七章　地券臺帳ノ事

第一款　地券臺帳

（廢停）○内務大藏両省府縣達明治十二年七月二日

地券臺帳ト割印ノ儀ハ壬申二月地券渡方規則（甲編第七章第一款ニ出）幷八年地租改正事務局乙第八號（同上第二款ニ出ッ）雛形等ヲ以テ相達置候處自今相廢シ候條此旨相達候事

○地租改正事務局乙第十號府縣達同十二年二月廿四日

地券用紙ノ内印刷損書損及ヒ不用反古紙ノ儀ハ縱横細斷ノ上不取締無之樣注意入札拂取計代價ハ改租供用定式書換用ノ區別ヲ不問總テ證印稅受拂勘定帳完結迄ノ分ハ該帳元受ニ組入改正費ニ仕拂候儀ト可相心得此旨相達候事

但是迄往々及指揮候向ニテ本行ニ牴觸スルモノハ渾テ取消ノ儀ト可相心得事

○地租改正事務局乙第三號府縣達同十三年五月七日

地券用紙遣拂届差出方左ノ通可相心得此旨相達候事

一地租改正ノ際一般下與スル用紙ハ改正整頓結局ニ到リ一齊ニ取調差出スヘシ

一平常拂下地下ケ渡地幷賣買讓與水火盜難等ノ書換ニ供スル用紙ハ會計年度毎ニ取調年々七月三十日限差出スヘシ

一當局別報第八十九號揭載廣島縣ヘ指令ニ準據是迄差出來候府縣ノ外ハ初頭ヨリ客年六月迄之分ヲ取纏來ル六月十日迄ニ差出スヘシ

○太政官第廿五號布告同十三年五月廿日

第一條　明治七年第五十三號ヲ以テ地租改正後五ケ年間ハ當初定メタル地價ニ據リ收稅致スヘキ旨布告ニ及ヒ置候處仍ホ明治十八年迄據置收稅致スヘシ

但府知事縣令ニ於テ當初定メタル地價不適當ナリト思量シ其事由

ヲ具申スルトキハ大藏卿ハ檢査員ヲ派遣シ實地調査ノ上一町村又ハ一郡區限リ特別修正ヲ聽許スヘシ

第二條　改租以後地目變換田ヲ畑ニ畑ヲ田ニ爲スノ類ヒルモノハ五ケ年滿期ニ際シ總テ現地目ニ組換地價ヲ修正シ爾後變換スル者ハ其年々修正スヘシ

第三條　第一條第二條ニ依リ修正ヲ加フル時ハ明治六年第二百七十二號布告ノ地租改正條例及ヒ同年七月大藏省事務總裁布達ノ地租改正施行規則ニ依ルヘシ且其費用ハ官吏ノ旅費日給ヲ除クノ外悉皆修正ニ該ル郡區町村若クハ所有者ヨリ支出スヘキモノトス

第四條　地價修正ノ後租額ノ增減ハ其修正聽許ノ年ヨリ改正スル者トス

右布告候事

第二款　地券渡方

○地租改正事務局乙第八號達　明治十二年九月廿九日

地券授與ノ濟否參照ノ次第有之候條卽今授與濟ノ分及ヒ前途悉皆渡濟ノ見込トモ詳細取調本年十月三十日限可差出此旨相達候事

○地租改正事務局番外　府縣　達　同十三年五月廿一日

地券證印稅ノ儀券狀下附ノ際直ニ徵收スヘキ筈ニ付券狀ヲ下付シテ後證印稅ノ徵收ヲ猶豫シ或ハ數度ニ數度ニ徵收スル等ノ儀ハ不相成筋ニ候條爲心得此旨相達候事

第三款　地券書換

○地租改正事務局乙第四號　府縣　達　明治十二年五月三日

新規拂下地幷書換賣買讓與水火盜難等ニヨリ書換ルモノヲ云フ以下同シ關スル地券証印稅ノ儀明治六年迄ハ地券渡方ニ付收入ノ印稅同樣右關係ノ諸費ニ仕拂同七年ヨリ書換ノ印稅ハ規則ノ通上納可致旨同年租稅寮改正局日報第四號ヲ

以テ相達置候處右新規拂下地及無代下與學校敷地ニテ收入スル印稅ハ地租改正濟更正券狀一般授與スル迄ナ分界トシ地券証印稅帳元受ニ取計其後ニ屬スルモノハ書換ノ印稅同樣大藏省ヘ納入候儀ト可相心得此旨相達候事

○地租改正事務局乙第五號府縣達同十二年五月十五日

（刪除）

本年三月乙第三號（甲編第七章第三款ニ出）達地券取扱順序第二項削除候條此旨相達候事

○地租改正事務局乙第一號府縣達同十三年四月廿六日

明治十年當局乙第三號ヲ以テ官地拂下荒地免稅幷開墾鍬下年季明等ノ地所ニ下附スル券狀書式雛形相達置候處自今右事由記載ニ不及候條此旨相達候事

○地租改正事務局乙第貳號府縣達同十三年四月廿八日

地券定式書換ニ屬スル費用ノ儀明治十三年度以後ハ各郡區廳中諸費ノ內ヨリ支辨可致此旨相達候事

○滋賀縣伺同十二年十月

第二條　人民ヨリ差出ス書換願書ハ縣令ノ名宛ニ爲致其例規アル書換願普通ノ書換願ハ願書一通ヲ爲差出指令郡區長ニ專行セシムルモノトシ其取扱手續ヲ定メ置キ可然哉（第一第三第四條ト略ス）

第五條　明治十一年貴局乙第十六號御達中十年度以降ニ係ル書換券面地租ノ廉ハ百分ノ二ケ半トノミ記載可致ト有之候處本年貴局第貳號用紙改正ノ雛形及乙第三號ノ雛形ニモ舊ノ如ク地租百分ノ三金併記有之候得共右ハ全面ノ書体ヲ指示セラレタル迄ニテ客年乙第十六號御達ノ主意ハ消滅シタルモノニハ無之儀ト相心得可然哉（第六條ニ略ス）

第七條　若シ券狀裏面界欄中ヘ所有者名義其他記入方ヲ誤リタル片

ハ不見苦分ハ曾テ伺濟ノ例モ有之朱字訂正ノ心得ニ候得共其訂正スルニ由ナキ書換又ハ押印損ナシタルトキハ假令次ノ界欄餘地アルモ右ヲ勾消スルカ如キハ見苦シキヲ以テ此場合ニ於テハ新規券狀ヲ書換候積然レ𪜈前ノ如ク表面ニ書換事由ノ押印ニ及ハザルモノト心得臺帳ニノミ其譯記シ置可然哉

○地租改正事務局指令

伺之趣左之通可相心得事

第二條　當局乙第三號達（甲編第七章第三款ニ出）ノ通區郡長ニ於テ裏面ヘ確認ノ証ヲ記スル儀ニ付書換願書ハ區郡長名宛ヲ以テ差出サスヘシ

第五條第七條　伺之通

○廣島縣伺同十二年十一月

明治十年三月貴局乙第三號御達雛形中官地拂下荒地免稅幷開墾地鍬下年季明等ノ分券面第三欄內記載ノ位置ニ有之候處今般券狀紙更正

不動文字印刷ノ上御渡方相成候ニ付テハ記載ノ位置差間候條券面何レヘ記載候テ可然哉御明示有之度此段相伺

○地租改正事務局指令

伺之趣第一野內地券ノ文字上改正年ノ印側ニ記載可致事

第八章　迷子棄兒及ヒ行旅病人變死人其他事變アル時ハ警察署ニ報知ノ事

第一款　迷子棄兒關

第二款　行旅病人取扱規則關

第三款　變死人檢視要否

○内務省東京府達明治十二年十一月七日

各官廳内等ニ於テ變死傷者有之節檢視ノ儀別紙ノ通大藏省ヘ御達工部省ヘ御指令相成候條爲御心得及御通達候也〔工部省ヘ指令ハ大藏省ヘ達シト同シケレハ之レヲ略ス〕

別紙

○太政官ヨリ大藏省達明治十二年十月廿日

本年第十二號〔甲編第八章第三款ニ出〕ノ儀ニ付其省伺ヘ四月十二日及指令置候處左ノ通改定候條此旨相達候事

○改正指令

伺之趣ハ重傷死ニ至ルト看認ムルモノヽ外其負傷ノ原由判然ナル者ハ必シモ檢視ヲ要スルニ不及儀ト可心得候事

（改正）○太政官第十四號官省院使府縣達明治十三年二月廿五日

明治十二年三月第十二號達左ノ通改正候條此旨相達候事

官廳内幷ニ官有ノ工場及ヒ船艦等ニテ變死ニ係ル者及ヒ重傷死ニ至ルモノヽ外其負傷ノ原由判然ナル者ハ近傍ノ警察所ヘ報知シ檢視ヲ受クベシ

但軍人軍屬ニシテ海陸軍官限リ處分ヲ了シ警察官ノ檢視ヲ要セザル分及ヒ遠洋航海中ニ係ル者ハ此限ニアラズ

第四款　町村衛生事務條項

○内務省乙第五十五號府縣達明治十二年十二月廿七日

昨明治十一年當省乙第四十四號幷同四十九號ヲ以テ衛生事務擔當ノ吏員ヲ置キ候樣相達置候處自今更ニ衛生課ヲ設ケ略衛生ノ大意ニ通スル者ヲ撰テ之ヲ專任シ別紙ノ條項爲取扱候樣可致此旨相達候事

但事務條項ニ準シ職務章程取調可伺出事

別紙

町村衛生事務條項

第一條　出産、死亡、流産、ノ員數ヲ取調每月之ヲ郡區長ニ申出ル事

第二條　市街、道路、井戸、水道、下水、便所、肥溜、井溜、等ヲ清潔ナラシムル爲メ其掃除方ニ注意シ又其建築修繕等ニ付キ漸次改良ノ見込ヲ立ル事

學校、病院、囚獄、旅籠屋、借家、芝居、貸座敷、湯屋、温泉場、等ノ掃除方幷ニ建築方ニ注意シ衛生上ノ利害ヲ考ヘ漸次改良ノ見込ヲ立ル事

市場、製造場、畜場、屠場、魚干場、等ハ其位置及ヒ建造方ニ注意シ健康ヲ害スヘキ事由アラハ之ヲ改良スルノ見込ヲ立ル事

第三條　腐敗セル魚鳥、獸肉、蔬菜類、不熟ノ菓物、不良ノ鹽藏食物、及ヒ饂飩ノ粉類、等ノ販賣ニ注意スル事

第四條　飲水、氷、牛乳、ノ善惡其他飲料ノ腐敗贋造等ニ注意スル事

第五條　毒藥、劇藥、贋販賣、墮胎藥、及ヒ製藥、賣藥、等ノ取締ニ注意スル事

第六條　飲食物、玩弄品、等ノ着色料ニ注意スル事

第七條　墓地ノ位置經界ヲ見定メ及埋葬、火葬、ノ手續ヲ考ヘ郡區長ニ通知スル事

埋葬場ノ地形火葬場ノ建造方ヲ吟味シ其取締方法ヲ考ヘ殊ニ傳染病流行ノ時ニハ埋葬火葬日々ノ員數ヲ取調每週之ヲ郡區長ニ申出ル事

第八條　虎列剌、腸窒扶私、發疹窒扶私、痘瘡、瘧疾、實扶的里亞、赤痢、等ノ傳染病アリテ醫師ヨリ申出ルニハ直ニ之ヲ郡區長ニ通知シ速ニ豫防法ヲ

取掛ル事

家畜傳染病流行スルキハ之ヲ郡區長ニ通知シ適當ノ豫防法ヲ爲ス事

第九條　各種傳染病ノ勢次第ニ盛ナル時ハ郡區長ノ指圖ヲ受ケ町村會ノ公撰ヲ以テ臨時衛生委員ヲ增加シ消毒ノ法方及ヒ患者ノ引分ケ方等ヲ協議シ其處分ヲナス事

傳染病ノ種類ニヨリ消毒ノ方法患者ノ引分ケ方等ニ付其輕重ヲ斟酌スル事

人家稠密ノ町村ニ於テハ避病院ノ場所ヲ見定メ患者死者取扱ノ當否ニ注意シ患者ノ出入、全治、死亡等ヲ日々郡區長ニ申出ル事

第十條　町村內ノ未タ種痘セザル者ヲ取調普ク種痘セシムル樣盡力スル事

痘瘡流行ノ時ニハ說諭シテ再三種ヲ促カス事

町村內ノ醫師ヨリ出タセル種痘ノ統計表ヲ取纏メ每期之ヲ郡區長ニ

差出ス事

第十一條　黴毒檢查所アル町村ニ於テハ每月其統計表ヲ郡區ニ差出ス事

第十二條　癩病、腳氣、瘧疾、等地方病ノ有無其類別及多少ニ注意シ之ヲ郡區長ニ申出ル事

第十三條　町村ノ便宜ニ從ヒ其公議ニヨリテ町村醫ヲ設ケ貧民救療ノ見込ヲ立ル事

第十四條　衣食住其他習俗ノ健康ヲ害スヘキモノニ注意シ郡區長ニ通知シテ改正ノ見込ヲ立ル事

○內務省乙第五十六號府縣達　同十二年十二月廿七日

今般地方廳中衛生課設置ニ付テハ郡區中ニ主務相定メ擔當可爲致候得共町村內ニ於テ實際人民ニ接シ致世話候者無之テハ日常民間ノ實況ニ就キ行ハレ兼候場合モ不少ニ付更ニ町村ノ公撰ヲ以テ衛生委員ヲ設ケ

町村衛生事務

別冊ノ條項ニ準據シ戸長ヲ助ケテ該町村衛生ノ事務爲取扱可申此旨相達候事

但便宜數町村聯合ニテ撰用候モ不苦且委員設置ノ方法幷事務取扱手續等取調可伺出事

別冊府縣衛生課事務條項〔冗長ニ渉ルヲ以テ之レヲ略ス〕

○内務省番外府縣達同十三年一月六日

昨明治十二年乙第五十五號ヲ以テ衛生課設置ノ儀相達候ニ付テハ至急該課員ヲ撰定シ右職務章程幷乙第五十六號町村衛生委員設置ノ方法共往復日數ヲ除キ十五日間ニ取調伺出候樣可致此旨相達候事

○石川縣伺同十三年一月

衛生課設置ニ付テハ十二年乙五十六號〔前ニ出ツ〕町村衛生ノ費用ハ地方稅歟又乙五十五號〔同上〕ノ地方衛生ニ關スル費用ハ官費歟費途ノ區別ヲ伺

（電報）

○内務省指令（電報）

町村衛生委員ノ費用ハ其町村ノ協議ニ附スヘシ衛生課ノ費用ハ追テ何分ノ沙汰ニ及フヘシ

○愛知縣伺同十三年四月

今般衛生課及ヒ町村衛生委員被設置候ニ付テハ其職務章程幷衛生委員配置法事務取扱手續等經伺相定候處此先キ實際ノ便否ニ付多少改正候節ハ衛生局ヘ報告ノミニテ其都度伺出ニ不及儀ト相心得可然哉

此段相伺候至急御指令相成度候也

○内務省指令

書面伺之通

第九章　天災又ハ非常ノ難ニ遭ヒ目下窮迫ノ者ヲ具狀スル事

第一款　水火防禦ノ爲メ死傷者弔祭扶助料

○太政官第廿五號内務省達　明治十三年
使府縣　四月八日

一水火防禦ノ爲メ死傷セシ巡査ハ明治八年一月第三號達ニ照シ弔祭扶助料ハ達ニ掲クル所ノ半額ヲ内ヲ給シ療治料ハ疵傷ノ輕重ヲ量リ支給スヘシ

但水火防禦ノ際ト雖人命救援ニ係ル分ハ仍ホ八年第三號達ノ定規ニ依ルヘシ

一人民前項ノ場合ニ於テモ其弔祭扶助料及ヒ療治料ヲ給スルハ之ニ準スヘシ

但消防組ノ別ニ規則アルモノハ此限ニアラス

右相達候事

第二款　濟貧恤救關

第三款　儲蓄備荒法

○太政官第三十二號官省院　明治十二年
使府縣　八月九日

今般第廿九號ヲ以テ相達候明治十二年度歳入出豫算中儲蓄備荒法施設ノ儀豫定候得共其方法等追テ相達候迄ハ地租延納及ヒ救助貸出等總テ從前ノ通可相心得右相達候事

○内務省乙第二號府縣達　同十三年
一月九日

從來官民歩合ヲ以テ創設セシ鄉黨有之分ハ自今其町村ノ共有ト爲テ相渡シ凶荒豫備米等蓄積ノ用ニ供セシメ徒ニ廢棄セザル樣可取計此旨相達候事

○太政官第三十一號布告　明治十三年
六月十五日

備荒儲蓄法別紙ノ通相定來ル十三年度明治十四年一月一日ヨリ施行候條明治八年七月第百廿二號達窮民一時救助規則（甲編第九章第一款ニ出）及同十年九月第六十二號布

告凶歳租稅延納規則〔同上第三條ニ依リ出ッ〕ハ右施行ノ期日ヨリ廢止トス此旨布告候
事

備荒儲蓄法

第一條　備荒儲蓄金ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ食料小屋掛料農具料種穀料ヲ給シ又罹災ノ爲メ地租國稅ノ部分ニ限ルヲ納ムル能ハザル者ノ租額ヲ補助シ或ハ貸與スルモノトス

第二條　各府縣ハ土地ヲ有スル人民ヨリ地租ノ幾分ニ當ル金額ヲ公儲セシメ以テ儲蓄金ヲ設クヘシ各人ヨリ公儲スルノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ其總額ハ政府ヨリ配付スル金額ヨリ少カラザルヲ要ス

但市街ハ府縣會ノ議決ヲ以テ政府ノ許可ヲ得郡村ト其徵收法ヲ異ニスルヲ得

第三條　政府ハ毎歳百貳拾萬圓ヲ支出シテ儲蓄金ヲ補助スヘシ

第四條　政府ヨリ補助スル金額ノ内三拾萬圓ハ中央儲蓄金トシテ大藏卿之ヲ管掌シ九拾萬圓ハ各府縣ノ地租額ニ應シテ之ヲ配付スヘシ

第五條　府縣儲蓄金ヲ徵收シ管守シ支給シ及ヒ之ヲ一處ニ集儲シ數所ニ分儲シ或ハ米穀ヲ購入スルノ方法ハ府知事縣令ヨリ之ヲ府縣會ニ付シ其議決ヲ取リ内務大藏兩卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ

但米穀ヲ儲積スルハ儲蓄金ノ半額ニ超ユヘカラス他ノ半額ハ公債證書ニ交換シ置クヘキモノトス

第六條　府縣會ニ於テ議決スル儲蓄金支給ノ方法ハ左ノ制限ヲ超ユ可カラス

第一　食料ヲ給スルハ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサル者ニ限ル其日數ハ三十日以内トス又同上ノ窮民ニ小屋掛料ヲ給スルハ一戸拾圓以内農具料種穀料ヲ給スルハ一戸貳拾圓以内トス

第二　地租ヲ補助及ヒ貸與スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却スルニアラザレハ地租ヲ納ムル能ハザル者ニ限ル

第七條　各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及ヒ貸與ノ金額府縣ノ儲蓄金三分貳以上ヲ供用支出スルトキハ府知事縣令ノ具申ニ依リ內務大臣兩卿ノ協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助スヘシ

第八條　從前人民公儲ノ儲蓄金アル府縣郡區町村ハ之ヲ以テ今般施行スル所ノ備荒儲蓄金ニ補充スルコトヲ得

第九條　各府縣內儲蓄金ノ出納ハ大藏卿歲次或ハ臨時ニ之ヲ檢查スヘシ

第十條　府知事縣令ハ每年七月中ニ其府縣儲蓄金ノ出納ヲ內務大藏兩卿ニ報告シ兩卿ハ每年中央及ヒ府縣儲蓄金ノ出納ヲ全國ニ公布スヘシ

第十一條　此方法ハ貳拾ヶ年間施行スルモノトス滿期ノ後ニ至リ各府縣ニ存在スル儲蓄金ハ府縣會ノ議決ヲ以テ其保存方法ヲ定ムヘシ

第十章　孝子節婦其他篤行ノ者ヲ具狀スル事

第一款　賞典

○太政官第廿六號使府縣達　明治十二年六月十四日

明治八年七月第百廿一號（甲編第十章第一款ニ出ツ）達學校病院其他道路橋梁濟貧恤窮等ノ爲メニ金圓又ハ物品等ヲ差出シタル者成規ノ賞與行ハサル前罪ヲ犯シ懲役並ニ禁獄ノ刑ヲ受タル時ハ該賞與ハ行ハザル儀ト心得ベシ此旨相達候事

○宮內省華第廿二號華族達同十三年三月三日

華族ノ輩願屆等ノ儀ニ付明治九年九月第八十六號公達以後土地賣買地券書換等ノ願ハ其管轄廳ヘ差出候ニ付テハ自今學校病院及濟貧恤窮ノ費途ヘ出金願ノ儀モ同樣其管轄廳ヘ可差出候此旨相達候事

○內務省乙第廿五號府縣達同十三年五月廿一日

孝子義僕其他ノ篤志者ヲ賞スル節ハ其賞調褒狀及ヒ賞金賞品ノ類トモ郡區役所若クハ戶長役場ヘ遞送シ傳達セシメ候儀ト心得ベシ此旨相達候事

○司法省丙第一號大審院諸裁判所檢事在ラザル各縣ヘ達同十三年二月廿日

諸罰則中違犯者ヲ見屆ケ訴出ル者ハ其賞トシテ科料又ハ罰金ノ半高ヲ給付スト之レアルハ其違犯者無力ニシテ科料又ハ罰金ノ全部ヲ完納スル能ハザルトキハ實地徵收セシ金高ノ半額ヲ給付スル儀ト心得ベシ此旨相達候事

但本文ニ抵觸セル從前ノ伺指令ハ總テ取消候事

第十一章　町村ノ幼童就學勸誘ノ事

第一款　教育令及學校諸規則

○太政官第四十號布告　明治十二年九月廿九日

明治五年八月第貳百拾四號ヲ以テ布告候學制相廢シ更ニ教育令別冊之通相定候條此旨布告候事

別冊

教育令

第一條　全國ノ教育事務ハ文部卿之ヲ統攝ス故ニ學校幼稚園書籍館等ハ公立私立ノ別ナク皆文部卿ノ監督内ニアルヘシ

第二條　學校ハ小學校、中學校、大學校、師範學校、專門學校、其他各種ノ學校トス

第三條　小學校ハ普通ノ教育ヲ兒童ニ授クル所ニシテ其學科ヲ讀書習字筭術地理歴史脩身等ノ初歩トス土地ノ情況ニ隨ヒテ罫畫唱歌體操

等ヲ加ヘ又物理生理博物等ノ大意ヲ加フ殊ニ女子ノ爲ニハ裁縫等ノ科ヲ設クヘシ

第四條　中學校ハ高等ナル普通學科ヲ授クル所トス

第五條　大學校ハ法學理學醫學文學等ノ專門諸科ヲ授クル所トス

第六條　師範學校ハ教員ヲ養成スル所トス

第七條　專門學校ハ專門一科ノ學術ヲ授クル所トス

第八條　以上揭クル所何ノ學校ヲ設クルヤハ其地ノ情況ニ隨ヒ之ヲ論セス各人皆之ヲ設置スルコトヲ得ヘシ

第九條　各地方ニ於テハ毎町村或ハ數町村聯合シテ公立小學校ヲ設置スヘシ

但町村人民ノ公益タルヘキ私立小學校アルトキハ別ニ公立小學校ヲ設置セサルモ妨ケナシ

第十條　町村内ノ學校事務ヲ幹理セシメンカ爲ニ學務委員ヲ置クヘシ

但人員ノ多寡給料ノ有無ハ其町村ノ適宜タルヘシ

第十一條　學務委員ハ其町村ノ人民ノ撰舉タルヘシ

第十二條　學務委員ハ府知事縣令ノ監督ニ屬シ兒童ノ就學學校ノ設置保護ノ事ヲ掌ルヘシ

第十三條　凡兒童六年ヨリ十四年ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

第十四條　凡兒童學齡間少ナクトモ十六箇月ハ普通教育ヲ受クヘシ

第十五條　學齡兒童ヲ就學セシムルハ父母及後見人等ノ責任タルヘシ但事故アリテ就學セシメサルモノハ其事由ヲ學務委員ニ陳述スヘシ

第十六條　公立小學校ニ於テハ八箇年ヲ以テ學期トス土地ノ便宜ニ因リテハ此學期ヲ縮ムルコトヲ得ヘシト雖モ四箇年ヨリ短クスヘカラス此四箇年間ハ每年授業スルコト必四箇月以上タルヘシ

第十七條　學校ニ入ラスト雖モ別ニ普通教育ヲ受クルノ途アルモノハ

就學ト做スヘシ

第十八條　學校ヲ設置スルノ資力ニ乏シキ地方ニ於テハ教員巡回ノ方法ヲ設ケテ兒童ヲ教授セシムルコトヲ得ヘシ

第十九條　學校ニ公立私立ノ別アリ地方稅若クハ町村ノ公費ヲ以テ設置セルモノヲ公立學校トシ一人若クハ數人ノ私費ヲ以テ設置セルモノヲ私立學校トス

第二十條　公立學校ヲ設置或ハ廢止セントスルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第二十一條　私立學校ヲ設置或ハ廢止スルモノハ府知事縣令ニ開申スヘシ

第二十二條　公立學校ノ教則ハ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第二十三條　私立學校ノ教則ハ府知事縣令ニ開申スヘシ

第二十四條　公立學校ノ費用府縣會ノ議定ニ係ルモノハ地方稅ヨリ支

辨シ町村人民ノ協議ニ係レルモノハ町村費ヨリ支辨スヘシ

第二十五條　町村費ヲ以テ設置保護スル學校ニ於テ補助ヲ地方稅ニ要スルトキハ府縣會ノ議定ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得ヘシ

第二十六條　公立學校ノ土地ハ免稅タルヘシ

第二十七條　凡學事ニ供スル寄附金等ハ其寄附人ヨリ指定セシ目途ノ外ニ支消スルコトヲ得ス

第二十八條　公立小學校ヲ補助センカ爲ニ文部卿ヨリ毎年補助金ヲ各府縣ニ配付スヘシ

第二十九條　府知事縣令ハ文部卿ヨリ領取セシ補助金ヲ各公立小學校ニ配付スヘシ

第三十條　前年中授業四箇月ニ滿タサリシ小學校ニハ補助金ヲ配付セサルヘシ

第三十一條　私立小學校タリト雖モ府知事縣令ニ於テ其町村人民ノ公益タルコトヲ認ムルトキハ補助金ヲ配付スルコトヲ得ヘシ

第三十二條　教員巡回ノ方法ヲ以テ教授セシムルコト一箇年四箇月以上ニ至ルノ町村ニハ補助金ヲ配付スルコトヲ得ヘシ

第三十三條　各府縣ニ於テ便宜ニ隨ヒテ公立師範學校ヲ設置スヘシ

第三十四條　公立師範學校ニ於テハ本校卒業ノ生徒ニ試驗ノ後卒業證書ヲ與フヘシ

第三十五條　公立師範學校ハ本校ニ入學セサルモノト雖モ卒業證書ヲ請フモノアラハ其學業ヲ試驗シ合格ノモノニハ卒業證書ヲ與フヘシ

第三十六條　公立師範學校ノ整備ヲ要センカ爲ニ文部卿ヨリ補助金ヲ各府縣ニ配付スルコトアルヘシ

第三十七條　教員ハ男女ノ別ナク年齡十八年以上タルヘシ

第三十八條　公立小學校教員ハ師範學校ノ卒業證書ヲ得タルモノトス但師範學校ノ卒業證書ヲ得スト雖ニ教員ニ相應セル學力ヲ有スル

モノハ教員タルモ妨ケナシ

第三十九條　文部卿ハ時々吏員ヲ府縣ニ發遣シ學事ノ實況ヲ巡視セシムヘシ

第四十條　公私學校ニ於テハ文部卿ヨリ發遣セル吏員ノ巡視ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十一條　府知事縣令ハ管內學事ノ實狀ヲ記載シテ每年文部卿ニ申報スヘシ

第四十二條　凡學校ニ於テハ男女敎場ヲ同クスルコトヲ得ス

但小學校ニ於テハ男女敎場ヲ同クスルモ妨ケナシ

第四十三條　凡學校ニ於テ授業料ヲ收ムルト收メサルトハ其便宜ニ任スヘシ

第四十四條　凡兒童ハ種痘或ハ天然痘ヲ歷タルモノニ非サレハ入學スルコトヲ得ス

第四十五條　傳染病ニ罹ルモノハ學校ニ出入スルコトヲ得ス

第四十六條　凡學校ニ於テハ生徒ニ體罰ヲ或ハ縛ヲ加フヘカラススルノ類

第四十七條　生徒試驗ノトキハ父母或ハ後見人等其學校ニ來觀スルコトヲ得ヘシ

○文部省第八號布達同十二年二月十九日

敎育令第九條但書町村內人民ノ公益タルヘキ私立小學校ハ兒童ノ就學ニ便シ學期等公立小學校ト同樣ニシテ學科課程等都テ其町村人民ニ於テ公益トナシ而シテ府知事縣令ニ於テ公益ト認メタルモノト可必得尤該小學校ノ敎則ハ府知事縣令ヨリ文部卿ヘ開申可致此旨布達候事

○文部省第五號府縣達同十二年二月十九日

敎育令第三十一條府知事縣令ニ於テ私立小學校ノ町村人民ノ公益タルヲ認ムルニハ該學校ノ地位兒童ノ就學ニ便シ學期等公立小學校ト同樣ニシテ學科課程等都テ其町村人民ノ公益タルヘキ者ヲ以テ之ヲ認定

スベキ儀ト可心得且同條ニ因リテ補助金ヲ受ケタル私立小學校ニ對シテハ府知事縣令其管理ノ方法ヲ設ケ文部卿ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スルヿヲ得ヘキ儀ト可心得此旨相達候事

○内務省乙第五十四號府縣達同十二年十二月廿六日

本年九月太政官第四十號布告第廿六條ニ有之公立學校ノ土地トハ學校構内ノ土地ニ限ルモノニシテ其地ハ民有地第一種ノ儘ニテ免稅スヘキ主意ニ候條爲心得相達候事

○文部省第四號府縣達同十三年一月十九日

敎育令第廿六條公立學校ノ土地免稅タルヘキノ分ハ其地名何府縣下何何町村何番地坪數地價等詳細取調可屆出此旨相達候事

但本件屆出候後坪數地價增減等有之節ハ可屆出候事

○内務省乙第八號府縣達同十三年三月十一日

本年第六號ヲ以テ布達相成候公立學校設置ノ地所下與候儀更ニ其府縣ニ委任候條府縣限處分ノ後當省ヘ可屆出此旨相達候事

○文部省第十一號府縣達同十三年五月一日

敎育令第三十五條ニ據リ公立師範學校ニ於テ本校ニ入學セサルモノヘ學業試驗ノ上卒業證書ヲ與ルフニハ其試驗規則ヲ設ケ文部省ヘ可伺出此旨相達候事

○文部省第四號布達明治十二年十一月十日

文部省明治六年八月第百拾五號（學校教員ハ教導職ヲ兼務相成ラザル旨）布達廢止候條此旨布達候事

○文部省第五號布達同十二年十一月十二日

公立幼稚園書籍館等ヲ設置或ハ廢止セント欲スルモノハ公立學校同樣府知事縣令ノ認可ヲ經ヘキ儀ト可心得此旨布達候事

○文部省第六號布達同十二年十一月十二日

私立幼稚園書籍館等ヲ設置或ハ廢止スルモノハ私立學校同樣府知事縣

令ニ開申スベキ儀ト可心得此旨布達候事

○文部省第七號布達同十二年十一月十二日

公立幼稚園ノ保育法ハ公立學校ノ教則同樣文部卿ノ認可ヲ經ヘク私立幼稚園ノ保育法ハ私立學校ノ教則同樣府知事縣令ニ開申スヘキ儀ト可心得此旨布達候事

○文部省第九號布達同十二年二月廿八日

各地方ニ於テ教員巡回ノ方法ヲ設ケ兒童ヲ教授セシメントスルモノハ其教則ヲ編成シ公立學校ノ教則同樣文部卿ノ認可ヲ經ヘキ儀ト可心得此旨布達候事

○文部省第十號布達同十二年二月廿八日

文部省配付小學校補助金濫拂ノ儀自今小學校教員給料小學校書籍器械費小學校修繕費ノ外支消不相成候條此旨布達候事

○文部省第八號府縣達同十二年二月廿八日

公立學校ノ教則文部卿ノ認可ヲ經ントスルモノハ其學科學期課程教科書及生徒教養ノ目的ヲ記載可致此旨相達候事

○文部省第九號府縣達同十二年二月廿八日

公私學校ノ教旨府知事縣令ニ於テ弊害アリト認ムルモノハ其事由ヲ具シ文部卿ヘ稟申可致此旨相達候事

○文部省第十號府縣達同十二年二月廿八日

文部省配付小學校補助金小學校若クハ町村ヘ配付ノ儀ハ學齡兒童學校生徒ノ數ニ據リ或ハ其他ノ情況ニ應シ適宜ノ方法相設ケ可伺出此旨相達候事

○文部省第五號府縣達同十三年一月廿九日

小學校補助金ノ儀明治十三年七月ヨリ明治十四年六月ニ至ル一周年金貳拾萬圓配付候條此旨相達候事

○文部省第六號府縣達同十三年一月廿九日

公立師範學校補助金ノ儀明治十三年七月ヨリ明治十四年六月ニ至ル一周年金七萬圓配付候條此旨相達候事

○文部省第七號府縣達同十三年三月八日

公立學校教則ノ認可ヲ經ヘキモノハ篤ト調査ノ上意見ヲ付シテ稟申可致且既ニ認可ヲ經タルモノト雖ヒ教育上ニ弊害アリト認ムルトキハ其事由ヲ具シテ稟申可致此旨相達候事

○文部省第八號府縣達同十三年三月八日

私立學校ノ教則教育上ニ弊害アリト認ムルトキハ其事由ヲ具シテ稟申可致此旨相達候事

○文部省第九號府縣達同十三年三月廿三日

公立學校ノ教則文部卿ノ認可ヲ經ンヲ要スルモノハ其學科學期課程教科書及生徒教養ノ目的等ヲ記載可致明治十二年十二月第八號ヲ以テ相達置候處該學校地方稅ヲ以テ設置セルモノト町村ノ公費ヲ以テ設置セルモノトノ區別モ記載可致此旨更ニ相達候事

○文部省第十三號府縣達同十三年六月廿二日

文部省明治十二年十二月第八號達ニ因リ公立學校教則中教科書ヲ記載スルニハ其書名并ニ巻冊ノ記號出版ノ年月著譯者ノ氏名及改正增補ノ區別等詳細記載可致此旨相達候事

第二款　學務委員撰擧規則

○文部省第一號府縣達明治十三年一月六日

學務委員選擧規則ノ儀各府縣ニ於テ恰當ノ條款相設ケ文部卿ヘ可伺出此旨相達候事

○大坂府伺同十二年十二月

敎育令第十條ニ學務委員ヲ置クヘシト有之候ニ付テハ其選擧ハ人民ニ於テ必ス辭令書ヲ付與ズル儀ニ候哉又人民ノ開申ニ止リ候儀歟此段相伺候條至急御指令有之度候也

○文部省指令

伺之趣學務委員ノ當選者ヘハ適宜ノ方法ヲ以テ諦認ノ證ヲ可交付事

○熊本縣伺同十二年十二月

學務委員ハ一郡區內ヘ二三名ヲ置クモ其地ノ協議ニ任シ宜シキ哉急ヤ御指揮ヲ仰ク（電報）

○文部省指令（電報）

學務委員ハ町村ニ置クヘシ郡區ニ置ク可カラス

○石川縣伺同十三年一月

第二條　學務委員ハ町村小學事務ヲ幹理スル者ト存候就テハ數町村連合協議費ヲ以テ設立候中學若クハ專門學校ノ事務幹理方等ハ地方ノ便宜ニ任シ學務委員ニ準シ別種委員ヲ撰擧爲致候テ無差支哉

○文部省指令

第二條　學務委員ハ小學校ニ係ル事務ノミヲ幹理スルモノニアラス町村內ノ學務ハ總テ之ヲ幹理スルモノト可相心得事

○群馬縣伺同十三年二月

學務委員ノ選擧被選人ハ敎導職ニテモ不苦哉（電報）

○文部省指令（電報）

學務委員選擧被選擧人ハ敎導職ニテモ苦シカラス